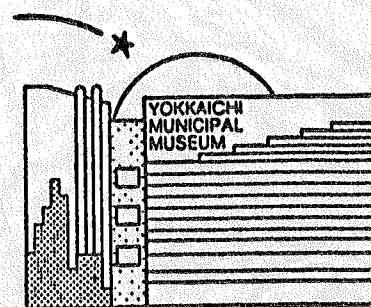


平成7年度

■ 年 報 ■

第3号



四日市市立博物館

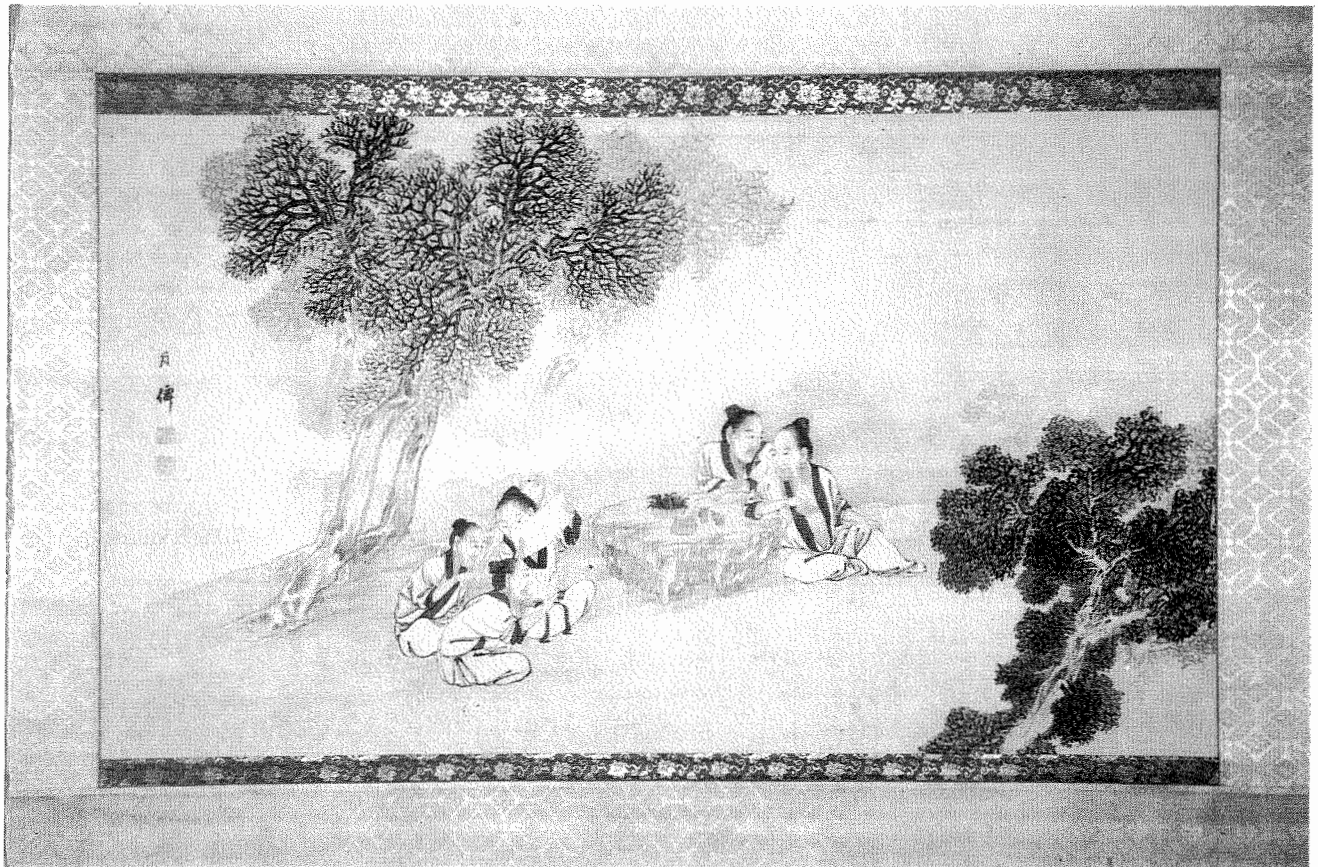
四 日 市 市 民 憲 章

私たちの四日市は、西に鈴鹿山脈、東に伊勢湾を望むすばらしい自然に恵まれ、古くから「市」が開かれたまちとして、また、東海道の宿場として栄えてきました。この自然と歴史のうえに近代産業が開花し、世界に広がる港とともに、明日に向かって躍進する都市です。

私たちは、四日市市民であることに誇りと責任をもち、豊かな未来と住みよい郷土を築くため、次のことを誓います。

1. 自然を愛し緑と水のきれいなまちをつくります。
1. やさしい心のかよい合う温かいまちをつくります。
1. きまりを守り楽しく明るいまちをつくります。
1. 伝統を生かし文化の香りのたかいまちをつくります。
1. 産業を育て活気あふれるまちをつくります。

(昭和37年8月1日制定)



絹本着色「仙遊図」 月僊画

縦75.5cm×131.6cm

書を読む三人と石机にもたれてくつろぐ二人の仙人を中央に配し、左右に数本の樹木を描いた単純な構図の作品だが、月僊の典型的な表現がみてとれる。大作で、描写も丹念になされた良質の作品といえるであろう。

平成5年11月1日に開館した四日市市立博物館の活動も、ようやく2年半を経過し、7年度も秋の特別展をはじめとして6回の企画展を無事終了することができました。

とりわけ、平成7年12月には、プラネタリウムの入場者が10万人を達成し、17日には記念品の贈呈式を行うことが出来ました。プラネタリウムの座席数が満席でも164席であることを考慮にいますと当初の予想をかなり上回る時期での達成であり、館員一同の喜びとするところであります。

異色の企画展「ウルトラヒーロー30年の歴史展」では、12月17日(日)に1日あたりの入館者数としては過去最高の4,426人を記録し、展覧会を通して36,892人の入館者があり、通常はあまりご利用いただけない方々にも博物館に親しんでいただける良い機会となったのではないかと考えております。

また、館員によります月に一度の講演会（月例土曜講演会）を実施いたしました。当館の学芸員を中心とした講演会に果たしてどれだけのの方がお集まりいただけるものか不安な中で出発いたしました。幸いにして各回とも盛況で、予想をはるかに上回る数の方にお越しいただきましたことは、私共にとって今後の活動のはげみになりました。

さらには、7年度からの新たな試みとして特記すべきは、博物館における「解説ボランティア」の養成と試行的導入、及びプラネタリウムにおける「天文ボランティア」の養成があげられるでしょう。前者は、7年度内は特別展・企画展ごとに限った活動ではありますが、各特別展・企画展ごとの解説を行うボランティアという全国的にも特筆すべき活動を展開し、生涯教育の見地からも大いに貢献し得るものと考えております。また後者は、平成8年夏の移動天文車の導入にともなって、観望会の際に天文指導員としてご助力いただくことを目的としてそのための養成講座を受講していただきました。夏以降の活躍が期待されます。

当館では、館の内外を問わず、種々の活動を行っていききたいと存じますので、今後とも是非各方面からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

目 次

館蔵資料紹介 II

年報発刊にあたって

目次

I. 事業概要

1. 常設展示	1
2. 特別展等展示	4
3. 教育普及活動	13
4. 資料収集保存活動	23
5. 調査研究活動	31
6. プラネタリウム事業	33

II. 管理・運営

1. 組織	41
2. 予算	42
3. 博物館協議会	43
4. 利用状況	45
5. 関係法規	48

III. 施設概要	51
-----------------	----

IV. 利用案内	54
----------------	----

V. 博物館日誌抄	55
-----------------	----

I. 事業概要

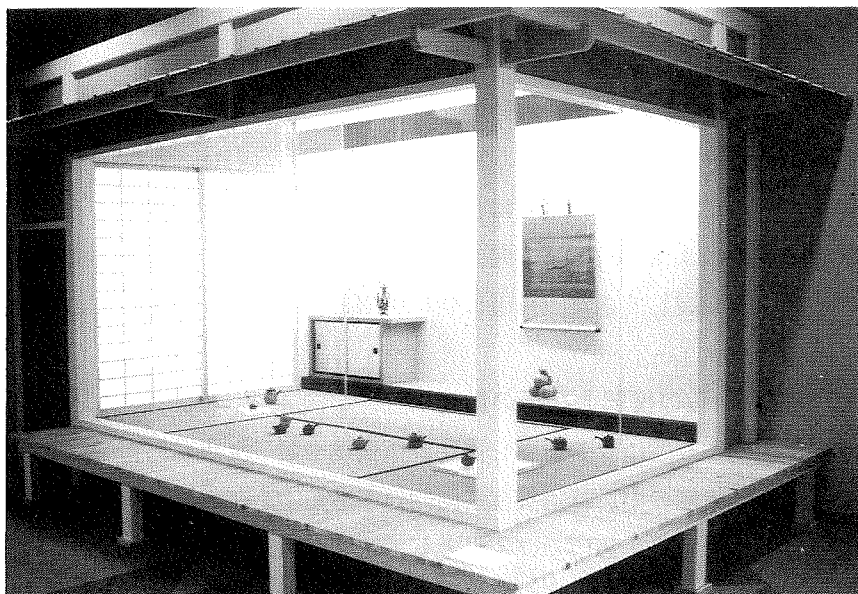
1. 常設展示

当館の常設展示は、その基本テーマを「伊勢湾（うみ）と鈴鹿山脈（やま）のある四日市の文化と生活環境」として作成した。内容は、地質時代から現代に至るまでの“四日市のあゆみ”をその時代ごとの特色を活かしながら、6つの時代に分けて各時代を位置づける大テーマと小テーマより構成する。

展示室内は、各テーマごとにその時代を代表させる大テーマ展示と、そのほか個々の事例については詳細展示によって補完している。特に、大テーマ展示では当時の様子を代表するような情景模型、推定復元模型や特殊映像などを用いてその時代その時代を疑似体験してもらえる空間としている。各展示資料は、資料に応じて実物や複製品・パネルと“もの”にあわせて展示するとともに、映像による展示も多用し、よりビジュアルで分かりやすい展示を目指している。

導線も3階部分から2階部分へと見学しながら下へと降りていくように設定し、来館者の疲労を少しでも軽減するように配慮した。

3階入口付近には映像展示室“サルビアシアター”を設けて、縦3面×横4面の12面マルチスクリーンを用いて、様々な画面を組み合わせることによって多彩な画像を展開させることができ「宇宙への道」では、展示物を中心に四日市のあゆみを紹介する。また、この12面の画面を全体で使うとハイビジョン番組の投映が可能であり、当館のオリジナル番組の「広重の描いた四日市」および「浮世絵で見る四日市」のほか、各種ソフトを準備し定期的に入れ替えて上映している。また、常設展示内でも展示替えのできる部分については展示替えを順次行うこととし、さらには2階ラウンジ部分にも新たに展示スペースを設けて、定期的に展示替えをしながら萬古の作品を体系的に展示するなどリピーターにも配慮している。



〈新設した萬古展示スペース〉

■ テーマ 1 北勢地域のおいたちと自然環境

四日市は東に伊勢湾、西に鈴鹿山脈をひかえ、その間の標高差は 1,200m に及ぶ。地形や地質の違いや季節による気象の変化にも富み、多様な自然環境が生み出され生物の種類も豊富である。とくに御在所岳を中心とする地域はニホンカモシカをはじめ貴重な生物の宝庫である。この地方は海洋底に堆積した地層を土台とし、マグマの活動や海の侵入・後退、山地の浸食によって形成されてきた。このような環境に生物が育まれてきたが、この地域の過去の生物については化石を調べることによって次第に明らかにされてきている。

■ テーマ 2 原始・古代の人びとの生活

この地域にも、何万年も前から人びとが暮らしていたことが遺跡の所在や遺物などによって知られる。文字によるこの地域に関する情報は、英雄（ヤマトタケル）伝承や壬申の乱の経路にあたっていること等、その量は限られている。しかし、市内には数多くの遺跡が存在し、それらによって石器を使った人びと、土器を作って竪穴式住居に住んだ人びと、そして稲を作り、古墳を築造し、国家を形成していった人びとの歩みを知ることができるのである。

■ テーマ 3 四日市と四日市庭浦の成立

北勢地域は、肥沃な土地を背景に多くの武士が割拠し、近江商人なども多く往来して交易をおこなった。四日市の地名の語源は「四」のつく日（4・14・24日）に市が開かれたことによるが、文明 5 年（1473）の文書によって市に付属する港湾施設のあったことが知られる。

庶民は自分たちで助け合って家を造り、家の裏では野菜などを作り、洗濯は井戸等で踏み洗った。

■ テーマ 4 東海道と伊勢参宮道の賑わい

幕府は、街道に宿駅を設けて人馬を常備し、一里塚を置くなど、東海道をはじめとする交通網を整備した。四日市は東海道の 43 番目の宿駅が設定され、市域の南部で伊勢参宮道と交差し（日永の追分）、往来する人びとで賑わった。また、街道沿いでは餅や道中薬・足袋や団扇等が商われていた。また、熱田の宮と四日市市湊との間を「十里の渡し」として結び、物資の集散地としても栄え、その経済力を背景に新田開発などが進められた。

■ テーマ 5 四日市港と近代産業の発展

明治以降の四日市も、港と東海道を中心として発展した。明治政府は、富国強兵のスローガンをかかげ、急速な近代化をめざした。四日市市域では、稲葉三右衛門や服部長七等による港の整備、関西鉄道をはじめとする鉄道の整備により近代産業の発展を促した。それに伴い、製茶・製糸・紡績などの産業も発達し、中世の市場から発展してきた四日市は産業都市として大きく変化していった。

■ テーマ 6 戦災からの復興と都市の創造

四日市は太平洋戦争末期、9 度に及ぶ空襲を受け、市街地や第二海軍燃料廠をはじめとする工業地帯は壊滅状態となった。戦後復興の中、特定重要港湾四日市港を中心にわが国有数の石油化学コンビナートが形成され日本経済を支える工業都市のひとつとして重要な役割を果たした。その間公害問題が発生し、十分な改善には大きな努力と時間を費やすこととなった。現在では、その経験を活かし、環境と人との調和を目指した新しいまちづくりが進められている。

■ サルビアシアター

12面マルチスクリーンを駆使して現代までの四日市の歩みを、常設展示の内容にあわせて紹介する。また、画面をフルに使うとハイビジョン番組の投映が可能であり、当館のオリジナル番組のほか各種のソフトを準備し、定期的に入れ替えて上映している。

■ コーナー展示

＜四日市祭り＞

東海地方の三大祭りのひとつに数えられた戦前の祭りの様子を代表的な山車の復元模型やモニターによって再現している。

＜浮世絵の四日市＞

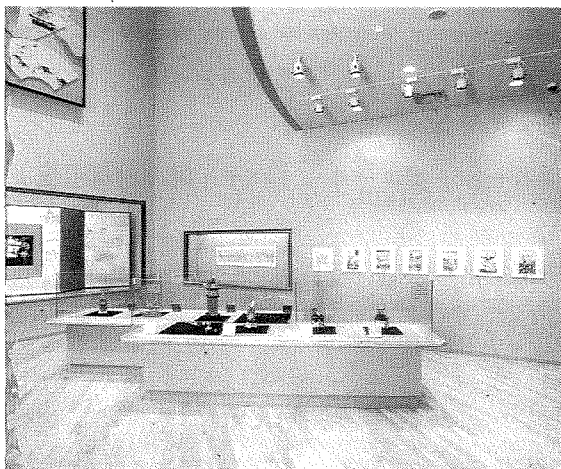
四日市市内には「日永の追分」や「富田」等、多くの作品に描かれている。ここでは、その代表的な作品を取り上げて紹介する。

●平成7年度常設展示

開館日数 309日

観覧者数 48,481名

観覧料	一般	210円
	高・大学生	150円
	小・中学生	100円



＜コーナー展示全景＞

2. 特別展等展示

開館3年目を迎え、博物館事業も軌道に乗り、調査研究・教育普及といった面にも力を入れたが、やはり展示活動を中心的事業として位置づけることに変わりはなく、学問的にも美術的にもすぐれた展示から、立地条件を活かしたユニークな展覧会まで、バラエティーに富んだ内容のものを展開できたと考える。

(1) 企画展Ⅰ 「ハイチの素朴な絵画展」 ～ナイーブなカリブの詩情～

●中米カリブ海に浮かぶハイチ共和国では、ヘイジャンアートと呼ばれるナイーブな絵画活動が続ける芸術がある。とにかく底抜けに明るく、楽しい画風が多く極めて自然に描くのが特徴。また現在ハイチは、長い軍事政権から、アリスティド大統領のもと新しい政治体制に踏み出したところでもある。今回の展覧会を通じて、ハイチの素朴で感動的な芸術に触れ、またハイチの国情にも通じてもらう。

●期間：平成7年3月30日(木)
～5月9日(火) 32日間

●後援：ハイチ大使館

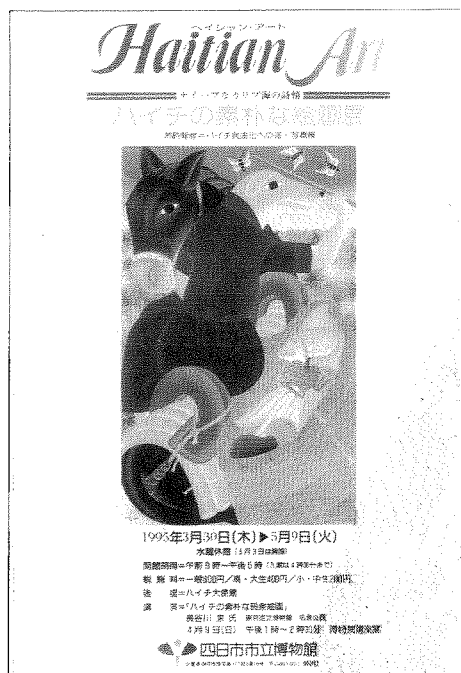
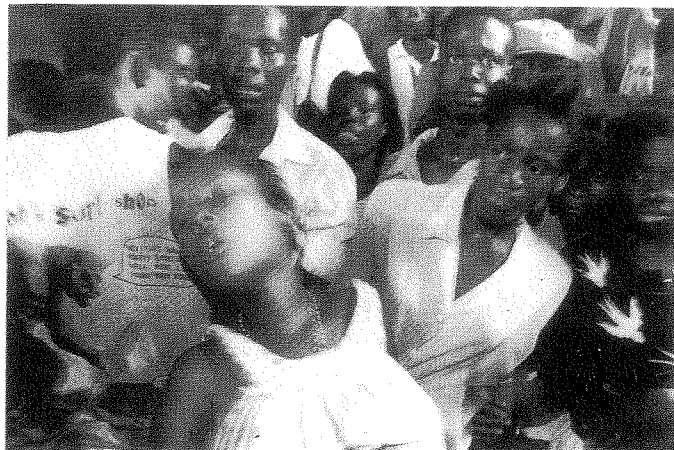
●観覧料：一般 600円 高・大学生 400円
小・中学生 200円

●入場者数：2,944名

●主な作家と作品

- * オーデ・ソール 「荷負わされた牝ろば」
- * アンリ・ロベール・プレジル 「森とフラミンゴ」
- * アルボット・ボナム 「2羽のオウム」
- * ドネ・スミス 「ロアス」
- * レオネール・ピエール 「ハイチ岬の村落風景」

●ハイチ民主化への道 写真展（同時開催）



ニューヨークを舞台に世界の動きを撮り続けているフォト・ジャーナリストの佐藤文則氏の写真展。佐藤氏は、ハイチ共和国が軍事政権の頃から現地に留まり、ハイチの「現実」取材し続けた。'54 茨城県出身。

●関連行事

○テープカット

3月30日(休) 来賓 駐日ハイチ大使 マルセル・ドゥレ氏



〈テープカット風景 右から2人目、駐日大使〉

○講演会

4月9日(日) 「ハイチの素朴な民衆絵画」 おかざき世界子ども美術館長 長谷川 栄氏

○実 演

平成7年4月22日(土)・23日(日) 画家 アルボット・ボナム氏



〈実演風景〉

●担当者の所感（学芸員 田中 伸一）

この展覧会は、ヘイシャンアートと呼ばれるハイチ絵画を中心に、工芸品の展示と写真展も同時に開催した。決して安定しているとは言えないハイチの国内情勢の中で、ヘイシャンアートの特有の明るい絵を描く人々の陽気さを紹介するという展覧会の主旨は観覧者にも十分に伝わったものと感じた。また、ハイチ大使館の後援をうけ、駐日ハイチ大使マルセル・ドゥレ氏のテープカットや画家アルボット・ボナム氏の実演が行われたことは、国際交流の観点からも有意義なことであったと思われる。

(2) 企画展Ⅱ 「四日市空襲」

～四日市空襲50年・非核平和都市宣言10年企画展～

●昭和20年（1945）6月18日のアメリカ軍による第1回目の四日市空襲では、B29、89機が高度2,000mから投下した焼夷弾11,000個以上（567t）で市街地の35%を焼失したと攻撃部隊は報告している。この日の被害は、死者763名、被災者47,000人を超え、全焼家屋11,000戸に達した。その後も、終戦までの3ヶ月間に8回にわたる空襲を受け、多くの人命が失われた。博物館では「四日市空襲」50年、「非核平和都市宣言」10年のこの年に、戦争の悲惨さ・愚かさと平和の尊さをあらためて心すべく、この展覧会を企画した。

●期間：平成7年7月16日(金)

～7月16日(日) 28日間

●観覧料：一般 210円 高・大学生 150円

小・中学生 100円

●入場者数：6,087人

●関連行事

○空襲体験を語る会

* 7月18日(日) 司会 藤田 正明氏

* 8月21日(月) 司会 岡野 繁松氏

語り手 旧四日市を語る会の会員7名

語り手 旧四日市を語る会の会員13名



●担当者の所感（学芸員 秦 昌弘）

終戦より半世紀、人口の半数以上を戦後生まれが占めるに至って久しい。太平洋戦争も、すでに歴史となりつつあり、その体験が風化しつつある今、是非とも戦争の愚かさや悲惨さを後世へ語り継いでいく必要があろう。太平洋戦争によって、甚大な被害を被るとともに数多くの尊い人命が失われた。また、アメリカ軍による本土空襲によって、国内の主要な都市は多く焦土と化し、戦後復興の中に



〈空襲体験を語る会風景〉

価値観の大きな転換がはかられるなど、その時代を生きた人々にとってこの戦争の体験がいかに深刻なものであったかを痛感させられた。また、四日市空襲に関しては、現在までは体験談を綴ったものが殆どで、資料集・写真集の類の刊行がなされていない。今後は、その点に留意して、四日市空襲に関する刊行物の発行を考えていきたい（『アメリカ軍が撮影した四日市・1945—アメリカ・国立公文書館所蔵写真より—』を平成8年3月15日発行）。

(3) 企画展Ⅲ 「あ！とおどろく昆虫たちの世界」

●遠い夏の日、誰しもカブトムシやクワガタムシを追いかけてたり、蝶の美しい舞に胸はずませた覚えがあるはず……。また、今でも日常的に多くの昆虫に触れる機会はあるし、蚊に刺されてかゆがったり、突如あらわれたゴキブリに悲鳴をあげたり……。わたしたちにとって、昆虫たちはたいへん身近な存在だが、その登場ははるか4億年もの昔。その後、あらゆる環境に適応して進化を続け、種の数では約77万種と全動物の70%を占める。われわれ哺乳類とはまったく異なった体形と構造を持つ不思議な生き物、昆虫。この展覧会では、身近な昆虫から世界の珍しい昆虫の標本や貴重な生態写真等を展示するとともに、身の回りの自然を見直していただくきっかけとなる展覧会とした。

●期間：平成7年7月28日(金)

～8月27日(日) 27日間

●観覧料：一般 600円 高・大学生 400円

小・中学生 200円

●入場者数：12,153人

●関連行事

○昆虫ウォッチング

8月8日(火)・9日(水)

於：中央緑地公園

○正しい名前調べと観察のまとめ

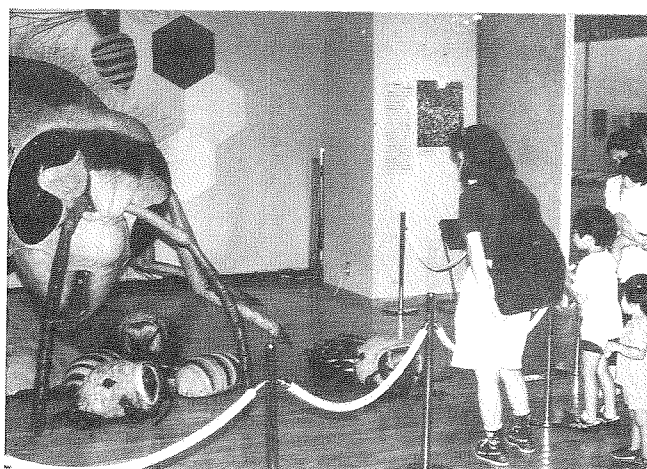
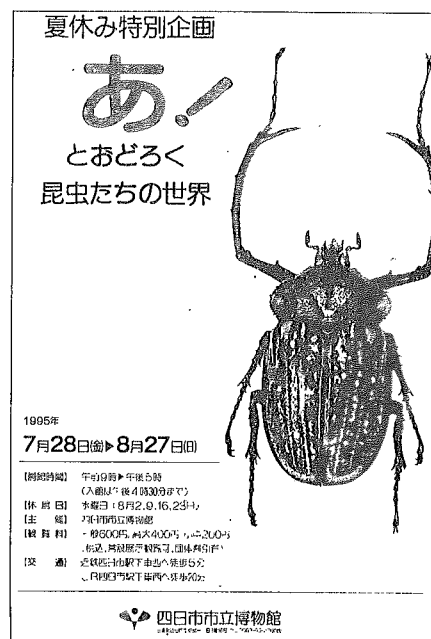
8月27日(日)

於：講座室

●担当者の所感(学芸員 秦 昭弘)

今回、一定の入場者数を確保できたのは、そもそも企画が夏休み向けであったことと、対象者を絞ったことによるところが大きいと判断される。当館用に改造した巨大昆虫、特に動きのあるものの前では、長い間立ち止まる子供も多く、関心が高かった。標本類は、複数箇所からの借用品であったため不

統一となった。今後は自前資料を整備していく必要性を痛感した。生きた昆虫も市周辺を中心に採集した。タガメやゲンゴロウなど図鑑でしか見たことのない子供が多く、興味深げであった(展示終了後は、採集地周辺へ放した)。



〈展覧会風景〉

(4) 企画展Ⅳ 「遣唐使が見た中国文化」

●今から1300年前、遣唐使として命を賭して中国へ渡った多くの人びとがいた。日本の古代は常に大陸文化の影響を受けながら生成発展してきた。とくに南北朝の分裂を再統一した隋に対してもわが国は使節を派遣したが、それを倒した唐という巨大な国家に対しては15回の遣唐使を派遣している。彼らが持ち帰った技術や文化、経験はその後のわが国の政治や文化形成に多大な影響をおよぼしている。今回の展覧会は、そういった中国と日本の文化交流の一端を、中国社会科学院考古研究所の最新の発掘成果をもとに、あらためて考えてみようとするものである。

●期間：平成7年9月2日(出)
～10月10日(火) 34日間

●観覧料：一般 600円 高・大学生 400円
小・中学生 200円

●入場者数：2,834名

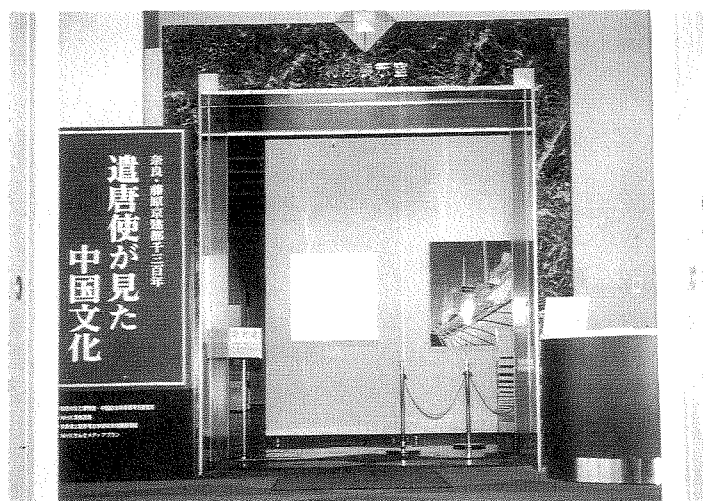
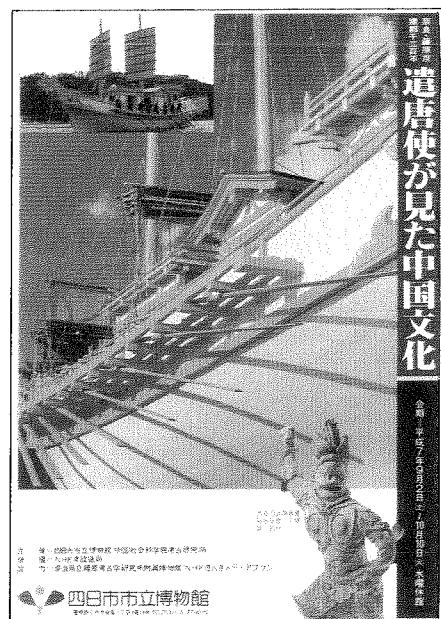
●関連行事

○列品解説

9月10日(日)

当館学芸員 中野 千幸

於：特別展示室



〈展覧会〉

○講演会

9月24日(日) 於：総合会館視聴覚室

「遣唐使が見た中国文化」

奈良県立橿原考古学研究所 所長 樋口 隆康氏



〈講演会〉

○展示資料解説

9月24日(日) 於：総合会館視聴覚室
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
主任学芸員 林部 均氏

●担当者の所感（学芸員 中野 千幸）

展示内容については、実にすばらしい優品揃いで、しかも大半が日本初公開であり、たいへんに充実していたと思う。しかしながら、期待に反して入館者数が伸び悩んだ。その要因としては、すでに春（3月29日～5月21日）に奈良県立橿原考古学研究所附属博物館で、この展覧会が開催されており、地理的にも時期的にも近接していたことが考えられるのではないだろうか。また、今回から企画展ごとの解説ボランティアを導入し、ボランティアを対象とした展覧会の事前研修を実施した。展示作業から撤収作業にかけて、四日市市に滞在された中国社会科学院考古研究所の馮浩璋・李春林の両氏、格別なご協力を賜った橿原考古学研究所の人々との交流は貴重な経験となった。

(5) 平成7年度特別展 「祭礼・山車・風流」 ～近世都市祭礼の文化史～

●全国各地に見られるさまざまな祭りは、それぞれの土地の人びとに親しまれ続けてきた伝統的文化の一つ。中でも印象深いのは、くり出されるきらびやかな山車の数々。この東海地方は「からくり人形」を使った独特の山車が様々な形に発達した地方であり、同時に奇抜な衣裳や扮装、珍しい民俗芸能にも興味をひかれるものが多い。この展覧会は、近世の都市の祭礼の全体像を絵画資料（屏風や絵巻物など）を中心に、文化史的な面から探ろうとするものである。

●期間：平成7年10月28日(出)

～12月3日(日) 32日間

●観覧料：一般 900円 高・大学生 600円

小・中学生 300円

●入場者数：2,944名

●関連行事

○列品解説

9月10日(日) 於：特別展示室

当館主幹兼学芸員 東條 寛

○講演会

11月5日(日) 於：講座室

「近世都市の祭礼」 当館主幹兼学芸員 東條 寛

11月12日(日) 於：講座室

「東海地方の山車祭礼」 民俗芸能研究家 鬼頭 秀明氏

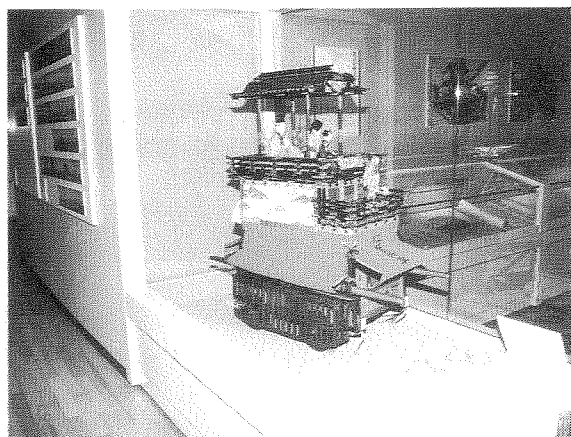
11月19日(日) 於：講座室

「近世祭礼と風流」 立命館大学講師 植木 行宣氏



●担当者の所感（主幹兼学芸員 東條 寛）

展覧会の内容については、やや難しい印象を与えるくらいがあったので、できるだけ題名やポスター等の絵柄に配慮する等の工夫を凝らした。広報等も早めに行ったがテレビ等のマスコミへの売り込みが不足した感がある。今回の展覧会については、四日市を含む東海地方の近世都市の祭礼を絵画資料を中心として全国的に把握するという趣旨のもので、地域の博物館の特別展に足る内容を備えていたと考える。また、入館者の解説ボランティアに対しての印象は概ね好意的であったし、ボランティアにとっても生涯学習という意味からある程度満足を得てもらえたものとする。



〈紅葉狩車山車模型〉（名古屋市博物館蔵）

(6) 企画展Ⅴ 「ウルトラヒーロー 30年の歴史展」

●ウルトラマンが初めて放送されてから、はや30年を迎えようとしている。その間、テレビ・映画・雑誌の世界にはさまざまなヒーローや怪獣が登場し、子どもたちは少なからず胸おどらせたが、果してそれらのうちいったいどれだけのヒーローが記憶に残っているだろうか。それに比して、初代ウルトラマンをはじめとして、歴代ヒーローを記憶にとどめている人のいかに多いことか。この企画は、初代ウルトラマンから最新作のウルトラマンパワードに加えて未来のヒーロー、ウルトラマンネオスやウルトラセブン21にいたる全ヒーローの展示をはじめ、人気怪獣の展示、それらのファイトシーンの再現、撮影に使用した本物の衣装や小道具等も展示して、ふだん博物館にあまり馴染みのない人にも気軽に楽しんでもいただける展示とした。

●期間：平成7年12月15日(金)

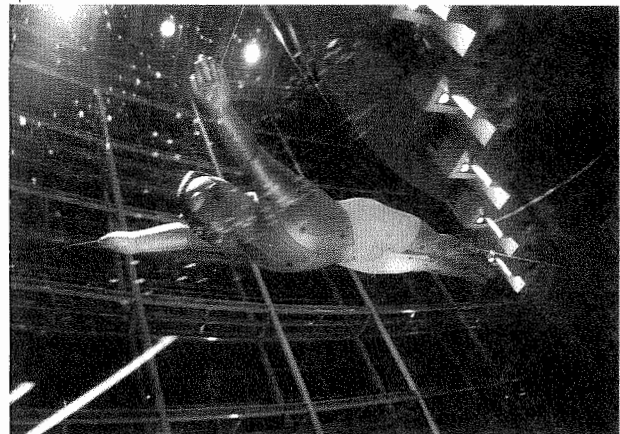
～平成8年1月15日(月) 23日間

●観覧料：一般 600円 高・大学生 400円
小・中学生 200円

●入場者：36,892名



〈展覧会風景〉



〈ウルトラマン バルーン〉

●担当者の所感（学芸員 堀越 光信）

今回の展覧会は、その内容からして、幼児・小学生の入場者が中心と思われた。しかしながらオープンしてすぐに気が付いたことは三代にわたっての来館者の多いことである。また、今回の展覧会は円谷プロの予測で1万人強であったが、オープンと同時にテレビ・新聞・ラジオ等マスコミに一斉に報じたことから、期間中記録的な大雪に何度も見舞われたりしたにもかかわらず、連日多くの来館者が訪れ、マスコミの影響力には驚かされた。また、今回気が付いたこととしては、障害者の入館者が通常の展覧会に比して多かったことである。展覧会の内容によるためと考えられるが、ヒーローものに限らず、このような視点の必要性も痛感した。

(7) 企画展Ⅴ 「朝日陶芸展」

●昭和38年に始まり、今回で33回を数える現代陶芸の公募展。当初は新進作家の登竜門といった性格が強かったが、現在では新人からベテランに至るまで、また彫刻・建築・絵画など陶芸以外のジャンルからも応募のある全国的な展覧会となっている。今回は全国40都道府県、513点の応募のなかから、入賞9点・入選100点、現代陶芸界の動向を伝える作品を展示。

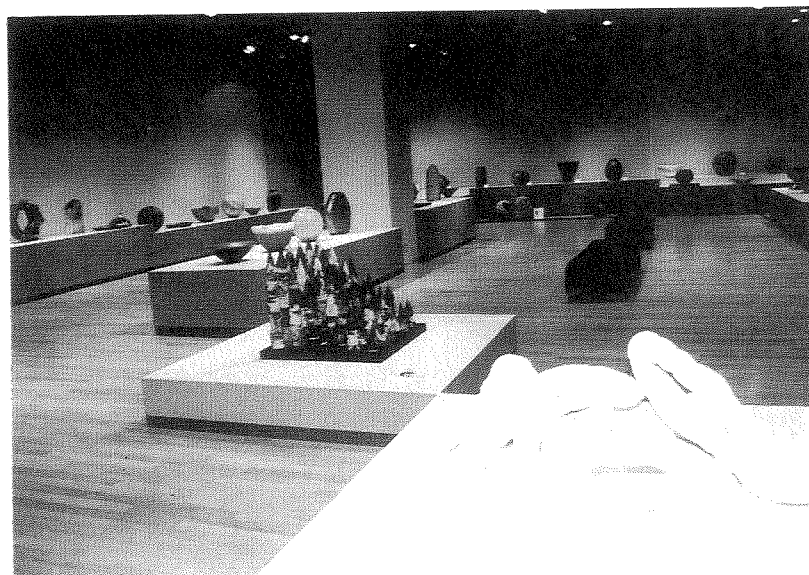
●期間：平成8年3月16日(土)
～4月14日(月) 26日間

●観覧料：一般 400円 高・大学生 300円
小・中学生 200円

●入場者数：1,778名

●担当者の所感（学芸員 廣瀬 毅）

朝日新聞社の名前を冠した展覧会であるため、大方のマスコミは記事として取り上げなかった。朝日新聞社では北勢（三重）版で4回の連載を行ったが効果薄の感であった。また、折り込みチラシは2月下旬に撒かれたため期待した効果はなかった。展覧会そのものは、来館者には概ね好評であったが、当館では初めての開催といったこともあってか、客足はあまり伸びなかった。萬古工業組合にもポスター等の依頼をしたが、早い段階から協力を申し入れれば、効果的に行うことが可能となるかもしれない。



〈展覧会会場〉

○第6回

平成7年10月21日(土) 14:00～15:30

テーマ 「地震のはなし ～観測から予知へ～」

講師 学芸員 森 昭宏

○第7回

平成7年11月18日(土) 14:00～15:30

テーマ 「江戸の学問 ～吉宗のころ～」

講師 学芸員 秦 昌弘

○第8回

平成7年12月16日(土) 14:00～15:30

テーマ 「天文と暦 ～太陽暦と太陰暦～」

講師 天文係長 岸本 茂

○第9回

平成8年1月20日(土) 14:00～15:30

テーマ 「考古学の動物園 ～かたちに願いを込めて～」

講師 学芸員 中野 千幸

○第10回

平成8年2月17日(土) 14:00～15:30

テーマ 「神像の成立をめぐる諸問題」

講師 学芸員 堀越 光信

(3) 博物館教室

テーマを決めた教室形式の講座。今年度は、3種類の教室を用意し、市民の種々のニーズに応えることとした。

○教室名 「壬申紀を読む ～『日本書紀』にみる壬申の乱～」

大化の改新を遂行し、律令国家の基礎を築いた天智天皇の亡きあと、皇太子であった弟大海人皇子と太政大臣であった息子大友皇子との間に起こった古代の大乱、壬申の乱について『日本書紀』を読みながらその経路や経過をわかりやすく学ぶ、講読形式の教室。

平成7年5月16日・30日, 6月13日・27日, 7月11日・25日の計6回開催した。

講師 学芸員 堀越 光信

○教室名 「古代仏教僧伝」

日本仏教の礎をつくった僧侶たちの伝記から、当時の仏教を考える。古代仏教史上有名な「聖徳太子」「道昭」「行基」「道鏡」「最澄」「空海」の6人を『続日本紀』の伝記などを読みながら、日本古代仏教史を通観し、わかりやすく学ぶ、講読形式の教室。

平成7年9月5日・19日, 10月3日・17日・31日, 11月14日の計6回開催した。

講 師 学芸員 田中 伸一

○教室名 「うひ山ふみを読む」

35年の歳月をかけて、『古事記伝』を完成させた本居宣長。その数ヵ月後に国学の手引書として初心者のために「うひ山ふみ」を著した。この教室は「うひ山ふみ」を受講生が中心となって読んでいく講読形式の教室。

平成8年1月16日・30日, 2月13日・27日の計4回開催した。

講 師 学芸員 秦 昌弘

(4) 古文書教室 第2期

古文書が読めるようになりたい!という方を対象とした、初心者向けの教室。この教室はくずし字を読むことと、江戸時代の社会を理解することを目的としたもの。

平成7年4月13日・27日, 5月11日・25日, 6月1日・8日・22日, 7月6日・20日・27日

8月3日・17日・27日, 9月14日・28日の計15回開催した。

講 師 学芸員 廣瀬 毅

(5) 古文書実習

前年度の古文書教室修了生を対象とし、さらに古文書の解読力を身に付けるためのもの。テキストは、当館所蔵の資料を使用し、取扱いのための研修を受講することを参加の条件とした。

平成7年5月12日・26日, 6月9日・23日, 7月14日・28日,

8月11日・25日, 9月8日・22日, 11月10日・24日,

12月8日・22日,

平成8年1月12日・26日, 2月9日・23日, 3月8日・22日の計20回開催した。

講 師 学芸員 廣瀬 毅

(6) 夏休み工作教室「竹トンボを作ろう」

夏休みを利用して、昔なつかしいおもちゃ、竹トンボを親子で作ってみようとする教室。

竹トンボの作り方を学んでもらうとともに、空高く飛ばすために木ではなくなぜ竹を使うのかについても考えてもらう。

平成7年8月8日

講 師 学芸員 廣瀬 毅

(7) 館外教室「東海道を歩こう」

三重県内にのこる東海道のうち、桑名の「七里の渡し」から関の「西の追分」までの間を4回に分けて歩こうというもの。今ものこる古い建物や松林、一里塚や道標・常夜灯といった史跡・旧跡を見ながら歩く。

第1回 七里の渡し（桑名市）～JR富田駅（四日市市） 約10km（雨天中止）

第2回 JR富田駅（四日市市）～近鉄内部駅（四日市市） 約12km

第3回 近鉄内部駅（四日市市）～JR井田川駅（亀山市） 約13km

第4回 JR井田川駅（亀山市）～JR関駅（関町） 約13km

担当 学芸員 廣瀬 毅 同 森 昭宏

同 田中 伸一 同 秦 昌弘

(8) 博物館実習

博物館学芸員資格に必要な博物館実習課程履修のため、各大学から要請のあった実習生の受入れを実施し、博物館実務を実習させた。

○7月24日(月)～28日(金) 5日間 9:00～16:10

受入れ実習生 12名

三重大学 2名 皇学館大学 1名

愛知教育大学 1名 愛知学院大学 3名

京都外国語大学 1名 京都女子大学 1名

東京農業大学 1名 群馬大学 1名

日 程

	月 日	午前（9:00～12:10）	午後（13:00～16:10）
1	24日 (月)	副館長挨拶 博物館施設見学 博物館法・文化財保護法と博物館	常設展示見学 博物館業務の実際(1)
2	25日 (火)	自然資料の収集と整理・ 取扱いの実習	展示作業実習
3	26日 (水)	美術工芸資料の取扱いの実習	資料の借用・梱包等実習
4	27日 (木)	歴史資料の収集と整理・ 取扱いの実習 博物館の展示とは	考古資料の整理・ 取扱い実習
5	28日 (金)	博物館業務の実際(2) 博物館業務の実際(3)	共同討議およびレポート（博物館と学芸員のあり方）作製

(9) ボランティア養成講座

博物館における教育普及の機能は、その事業の中に大きな位置を占めるべきものであることは言うを俟たないところである。博物館は、市民にとっての生涯学習の場として機能すべき施設であり、さらにはボランティア活動の場としても期待される施設と言えよう。その意味から、当館においても建設準備の段階からすでに市民学芸員の必要性が指摘されてきたところである。そこで、7年度は数多く考えられるボランティアの活動分野の中から、活動内容を各特別展・企画展の監視と展示解説に限ってボランティア養成講座の受講者を募集し、計8回の講座と事前研修会を実施し、9月2日(土)より「遣唐使が見た中国文化」展において活動を開始した。そして、実際の活動を経験したのち面接を行って活動の継続の意思を確認して仮登録し、その後3回の活動を経験しさらに継続の意思を持った人を8年4月以降に正式登録とすることとし、89名のボランティアが定着している。

○ボランティア養成講座日程

日 程	時 間	講 座 内 容	担 当
6月11日 (日)	14:00～16:00	ボランティア内容の説明・施設見学	堀越
6月24日 (土)	13:00～14:30 14:40～16:10	博物館におけるボランティア活動について	館長
7月1日 (土)	13:00～14:30 14:40～16:10	博物館法および文化財保護法と博物館	東條
7月9日 (日)	13:00～14:30 14:40～16:10	接遇研修	外部講師
7月23日 (日)	13:00～14:30 14:40～16:10	常設展示研修 (各テーマ毎)	企画普及係
8月13日 (日)	13:00～14:30 14:40～16:10	体験解説ボランティア	企画普及係
8月26日 (日)	13:00～14:30 14:40～16:10	ボランティアの役割分担と日程等調整	堀越

事前研修

○「遣唐使が見た中国文化」

9月2日(土) 9:00～10:30・10:40～12:10

○「祭礼・山車・風流 ～近世都市祭礼の文化史」

10月27日(金) 14:00～16:00・18:00～20:00

○「ウルトラヒーロー30年の歴史展」

事前研修資料のみ送付

○「朝日陶芸展」

事前研修資料のみ送付



〈ボランティア事前研修風景 展示は「遣唐使が見た中国文化」〉

(10) 三重県移動博物館

主催：三重県博物館協会

久居市

久居市教育委員会

後援：三重県教育委員会

期間：11月10日(金)～20日(日)

場所：久居市総合福祉センター
(体育館)出品資料：四日市祭の山車模型
大山・鯨船・天の岩戸
「ビデオ」

〈移動博物館〉

昭和9年四日市祭および館のPRビデオ

(11) 入館者調査

今後の博物館運営等に資するため、各企画展等ごとに「入館者アンケート」を実施し、入館者の情報分析を行った。

(12) 講師等派遣活動

地区市民センター等館外で行われる講演会等への講師派遣については、博物館活動と市民学習意欲とのパイプ役として業務に支障のない範囲で積極的に対応した。

館長	上井 久義	地区市民センター講演会講師
主幹兼学芸員	東條 寛	関西大学非常勤講師（民俗学）
学芸員	堀越 光信	皇学館大学史料編纂所研究嘱託 松阪大学非常勤講師（日本史）
学芸員	廣瀬 毅	みえアートカレッジ講師
天文係長	岸本 茂	暁短期大学星空教室講師

(13) 広報活動

企画展等をはじめとする各事業の広報は、市広報はもちろんのこと、「博物館ニュース」の発行、タウン誌、各報道機関への情報提供（記者発表・資料提供）、社会教育・学校教育機関、地区市民センターその他公共施設及び商業施設へのポスター・チラシの配付・掲示を中心に行ってきたが、今後も媒体・時期・場所等を十分研究し、効果的な活動を展開していきたい。

○博物館ニュースの発行

今年度は、部数を増やし、特に学校利用等に資するよう配慮した。

2回 A4版 4P 各 1,000部発行

(14) 施設の利用

本館の施設の利用については、四日市市立博物館条例第5条により特別展示室及び講座室について、博物館の設置目的に反しない、博物館事業に支障がないもので、市民の教育・学術及び文化の発展に寄与するものについて、商業宣伝・営業又はこれに類する目的以外の使用にその利用を許可している。今後も本館のキャッチフレーズである「駅前博物館」の特性を活かして、いつも何かがあり人が集まっており、市民の「観る・知る・創る・楽しむ」空間への期待感に応え、市民学習意欲や成果の発表の場として、無料利用である自由空間の1階エントランスホールも含め積極的に対応していきたいと考えている。7年度の利用実績は次のとおりであった。

〔特別展示室〕

5月19日(金)～6月4日(日) 「石垣定哉展」

主催：石垣定哉展実行委員会ほか

10月14日(土)～10月15日(日) 「ぼくの夢わたしの街」環境ポスターコンクール

主催：(株)四日市青年会議所

1月26日(金)～1月28日(日) 「坂井胡六追悼作展」

主催：四日市文化振興会

2月1日(木)～2月12日(月) 「第37回北勢高等学校美術展」

主催：三重県教育委員会ほか

同 時 開 催 「第22回高美展」

主催：三重県高等学校美術工芸教育研究会

(3) 資料の状況

1 人 文 科 学 資 料	区 分		実物	標本	模型 模写
	(1) 古 美 術		473	4	10
	(2) 近 代 美 術		384	0	0
	(3) 考 古 学		209	6	18
	(4) 民 俗		3,777	0	8
	(5) 民族・人類学		0	0	0
	(6) 歴 史		2,160	0	37
	(7) そ の 他		24	4	9
	計		7,027	14	82
	図 書	写 真	その他		
	1,902	67	0		

2 自 然 科 学 資 料	区 分		標 本	模 型
	(1) 動 物		0	0
	(2) 植 物		3,272	0
	(3) 地 学		90	2
	(4) 理 工 学		0	0
	(5) 天 文		7	0
	(6) そ の 他		0	1
	計		3,369	3
	図 書	写 真	その他	
	174	16	0	

(4) 購入資料

分 類	名 称	形状・形態
歴・近世	橘守部家集	冊子
歴・近代	伊勢街道施行の概略	一枚刷
美・近世	歌川広重 東海道五十三次 石薬師	浮世絵
美・近世	歌川広重 東海道五十三次 庄野	浮世絵
美・近世	月僊 仙人図	軸装
美・近世	月僊 山水図	軸装
歴・近世	斉藤拙堂書状	書状
歴・現代	米国立公文書館所蔵資料写真・文書 一式	写真等
美・近世	東海道図屏風	屏風
歴・近代	関西鉄道汽車発着時刻表及賃金表	一枚刷
美・近世	歌川豊国 東海道五十三対四日市	浮世絵

(5) 寄贈資料

分 類	名 称	寄 贈 者	年 月 日
美・現代	未完成	アルボット・ボナム	H7. 4.23
美・近世	明治萬古 生川善作 菓子器	水谷 謙吉	4.25
考 古	高塚遺跡出土 円筒埴輪片 川尻遺跡出土 山茶碗 等 小古曾神社境内出土 土師器片 等 雲出川流域遺跡出土 土師器片	武馬 正敏	5.12
考 古	自作資料（模造品） 弥生土器 甕 " 広口壺 " 彩色壺 " 彩色高杯 土師器 壺	武馬 正敏	5.24
考 古	高塚遺跡出土 土師器 甕 川尻遺跡出土 土器・木製品	武馬 正敏	5.24
歴・現代	罹災証明書	横山美知子	6.18
歴・現代	第二海軍燃料廠「印」弁当箱	天野 昭一	6.20
歴・現代	空襲で溶けた硬貨 陸軍雑のう 陸軍ハンモック	柴田又一郎	6.20
歴・現代	昭和20年6月18日の空襲で焼けた人形等	内山 三郎	7. 1
自 然	マガキ化石	堀口 一郎	7. 7
歴・現代	衣料切符 一般用米穀類購入通帳（昭和45年） 消費世帯用主要食糧購入通帳（昭和34年） 防空カバー	小河 清角	7. 9
歴・近世	藤堂高久 書状（包紙とも）	名古屋市美術館 福岡 栄	7.12
自 然	瑞浪産化石	林 昌信	7.25
歴・現代	第二海軍燃料廠 刻印 弁当箱（小）	天野 昭一	7.29
自 然	Vinctifer comptoni （硬骨魚類化石）	株 式 会 社 三 重 銀 行	9.13
そ の 他	将棋盤・駒	土田美代子	9.28
歴・近世	三十二間阿古陀形筋兜 頬当 紺糸威胴丸 桶側胴 五本篠筒籠髷当 五本篠髷当 七本篠髷当 篠佩楯	林 治	10. 6
歴・近代	開達丸看板（立看板） 百毒除滅丸看板	河村 郁雄	11. 7
歴・現代	愛国婦人会バッジ	小河 清角	12. 1

歴・現代	焼夷弾親爆弾の頭部	今村 政夫	12.10
歴・現代	小林英一（初代河原田農学校校長）大礼服 帽子 勲章	小林 英	12.15
民	六月大祓式 御雛形	大宮神明社 井後 政晏	12.15
民・歴	魚取りビン 草履 股引き 桶 前掛け 戦前期雑誌類 戦没者市葬通知 勤儉規約 九重真言	柴田 重道	H 8 . 2.05
民	柄鏡		2. 5
歴・近世 ・近代	鎌井松石関係資料 一括		3. 1



〈鎌井松石関係資料〉

(6) 寄託資料

分類	名 称	寄 贈 者	年 月 日
考 古	伝 大膳寺跡 出土 軒丸瓦 軒平瓦 平瓦 金環 伝 大膳寺跡 出土 須恵器 坏 須恵器 蓋	岩田 時雄	H 7 . 4.27
歴	松岡家文書	松岡 繁夫	10. 6
美	坂井胡六絵画作品 早春鎌 志摩海岸 山上ホテル周辺 山頂より 鎌ヶ岳 鈴鹿連峰鎌ヶ岳	四日市市 教育委員会 （文化課）	H 8 . 1.24

(7) 資料貸出

貸出日	資 料 名	貸 出 先	目 的
H7.4.8	古萬古 「窓絵窓山水文瓢形盛盞瓶」 「窓絵瓢形鯢文香炉」 「赤絵象唐子文小鉢」 「南蛮写筆筒」 「青磁盃台」 「赤絵龍盛盞瓶」 有節萬古 「盛絵山水文銚子」 「草花文煎茶碗」 「色絵草花文水指」 「搔落雲鶴文浅鉢」 など38点	(財)四日市市文化振興財団	常設展「古萬古展＝弄山・有節の美＝」に展示するため
4.11	萬古焼のビデオテープ	入間市博物館	特別展期間中ビデオコーナーで上映
4.25	射沢萬古「蓬萊文水指」写真 (モノクロ) 1点	(株)淡交社 編集室	谷端昭夫著 「チャート茶道史」に掲載
5.20	手捻狸摘急須ポジフィルム 1点	(財)四日市市文化振興財団	ポスター製作のため
5.20	東京国立博物館所蔵 青陽軒 幽山筆「捕鯨図」ポジ3点 東京国立博物館所蔵 栗本瑞 軒筆 「鯨図」ポジ4点	山口県立山口博物館	企画展「くじら」の解説書および広報印刷物に利用するため
5.23	四日市市立博物館写真3点	四日市市港湾審議監室	全国港湾都市協議会パンフレットに使用するため
6.5	「慶応四年諸用留」(清水文書) 1点 「文政三年 乍恐書附ヲ以奉願上候」(清水文書) 1点	市史編さん室 (四日市市)	四日市市史に掲載のため
6.7	大原吞舟筆「烏繩之図」4×5カラーポジ1点	吹田市立博物館	企画展「水辺の文化の再発見ー鴨にみる人と自然ー」展に写真パネルで展示するため (図録にも使用)
6.7	四日市市立博物館外観写真 1点	四日市市役所商工振興課	「事業所ガイドブック」に掲載するため
6.17	戦前・戦中 スライド10点	琴修会セシル	第2回大正琴チャリティーコンサートにてスライド上映
6.23	博物館外観および 施設等写真 6点	旅行情報誌「マッフル情報三重県」(株)昭文社	'96年度版 四日市特集に掲載するため
6.22	鎌井松石関係資料(寄託資料)のうち『三重本草稿』6巻標本類6点	三重県立図書館	展覧会に出品

貸出日	資 料 名	貸 出 先	目 的
7.18	(四日市空襲) 作戦任務報告書 2 点	市史編さん室 (四日市市)	四日市市史の現代編の基本調査の一環
7.18	四日市空襲関係パネル13点他	長島町輪中の郷	「回顧展」の展示に使用するため
7.19	清水家文書のうち「慶応四年諸用帳」ほか 9 点	市史編さん室 (四日市市)	四日市市史に掲載するため
7.19	ビデオ (映像が語る四日市空襲)	四日市市立中部中学校	生徒への平和教育の一環として
7.21	ビデオ (映像が語る四日市空襲)	四日市市日永地区個人	地区サークル活動にて使用するため
7.24	四日市空襲関係パネル 6 点	名張市役所	戦後50周年平和記念事業「平和を考える展示会」に展示するため
7.25	鯨の供え物模型とポジ 1 点 クジラ (京都府伊根) とポジ 1 点	山口県立山口博物館	企画展「くじら」に展示するため
7.28	防空頭巾 回覧板 (在郷軍人会支部報) 奉公袋 慰問袋 出征兵士写真パネル	河芸町郷土資料室	終戦50周年記念「非核平和展」に展示するため
8. 3	四日市空襲関係写真パネル 7 点 ビデオ (映像が語る四日市空襲)	県地区市民センター	県地区平和祈念祭に展示
8. 4	木下富雄 木版画 5 点 Women Mask3 仮面たちNo.3 Face (2 人) Face (2 人)	三重県立美術館	「木下富雄」展開催のため
8.11	飯盒・水筒・ゲートル・軍服・防空頭巾・戦災四日市のスケッチ等15点	三重県教職員組合三泗支部	8.15平和集会にて展示
9. 1	ビデオ (映像が語る四日市空襲)	四日市市内個人	地区子供会にて上映するため
9. 5	木型作り吹墨文急須 (森有節) 手捻狸摘急須 (円相舎) 手捻急須 (無眼楽) など34点	(財)四日市市文化振興財団	常設展示に展示するため
9. 6	赤絵龍文盛蓋瓶 赤絵山水文燭台 赤絵窓山水文銚子色絵花鳥文大皿	田島町総合歴史民族文化財保存施設 (奥会津地方歴史民族資料)	企画展「鴨山萬古」展に出品のため
9. 6	原爆関係パネル 四日市空襲関係パネル	四日市高等学校	文化祭クラス展示
9. 8	「御伝馬有り馬・無馬書記」1 点 (井島文庫文書)	市史編さん室 (四日市市)	四日市市史に掲載のため

貸出日	資 料 名	貸 出 先	目 的
9.20	須恵器三足壺（御池4号墳）	愛知県陶磁資料館	秋季特別企画展「－古代の造形美－装飾須恵器展」に展示
10. 3	陸軍カバン・軍服戦災スケッチ・引上げ証明書等26点	四日市商業高等学校	校内文化祭に展示するため
10. 4	日本航空機総集 羽田空港の歴史 玉井清太郎君を思う等17点	三重情報㈱	「ルック三重 11・12月号」に掲載
10.24	ビデオ（映像が語る四日市空襲）ほか2点	四日市市立朝明中学校	文化祭にてコーラスの背景映像に利用するため
11. 9	カラーポジ2点（常念寺蔵菩薩形立像・薬師寺蔵薬師如来立像）	近畿文化会	『近畿文化』第553号に掲載するため
11.18	年中行事ビデオ 13本	株式会社 画キ画	企画の参考資料とするため
11.21	歌川広重画「四日市・三重川」1点 乾達夫画「焼跡スケッチ」4点	㈱四日市市文化振興財団	『文化展望四日市』に掲載するため
12. 1	米国国立公文書館所蔵 写真フィルム 119点	市史編さん室 （四日市市）	四日市市史編纂の参考資料とするため
12.15	ビデオ（映像が語る四日市空襲）ほか2点	市史編さん室 （四日市市）	四日市市史編纂の参考資料とするため
12.15	年中行事（大四日市まつり）ビデオ1	ひろせ楽器	大入道鉦作製のため
12.28	日本国中御祭礼番付 1点	多度神社	「きり絵で見る東海の祭」で展示
H7. 1.29	清水本陣史料2点	市史編さん室 （四日市市）	四日市市史近世史料検討のため
2.59	桑名の連鶴関連資料 一括	有限会社 伊勢福	おかげ横町催事「おり紙でひなまつり」に使用
2.28	「狂歌入東海道」ほかポジ10点	市史編さん室 （四日市市）	四日市市史「近世Ⅲ」の口絵の候補選定のため
2.28	清水本陣史料1点	市史編さん室 （四日市市）	四日市市史「近世Ⅲ」の口絵用撮影のため

(8) 資料利用

利用日	資 料 名	申 請 者	利用方法及び目的
H7. 5.29	井島文庫文書 1 通 清水本陣文書 1 通	市史編さん室 (四日市市)	四日市市史編纂事業のため (熟覧)
6. 5	清水本陣文書10通	市史編さん室 (四日市市)	四日市市史編纂事業のため (熟覧)
9.21	鈴木製薬所推定復元模型 同製薬道具一式 同版本 清水本陣文書 「申合一札」「元和元年以来御往来記録」「大名行列配置表」	四日市市立教育センター	小学校社会科開発チーム、 ビデオ教材「旧東海道の旅」 制作のため（ビデオ撮影）
10.10	沼波弄山 赤絵窓山水 文瓢 形盛蓋瓶 森有節 色絵草花分煎茶碗 保永堂版四日市ほか16点	㈱映像館	N H K 衛生第一放送 “産物 列島 '95四日市萬古焼” に 利用（撮影）
11. 6	銅鐸（伊坂）	四日市市伊坂土地区画 整理組合	四日市市伊坂土地区画整理 組合の記念誌作成のため (写真撮影)
H8. 2. 5	古萬古 2 点	株式会社日本アート・ アートセンター	『やきもの 見方・見分け 方百科』へ掲載（撮影）
2.13	智積廃寺瓦10点	奈良県立橿原考古学研 究所	研究の用途に供するため (拓本)
3. 1	森正綱『傾蓋漫録』（井島 文庫）	三重県生活文化部学事 課県史編さん室	『三重県史』別編自然に掲載 する（活字翻刻）
3. 7	キリシタン訴人制札	津カトリック教会キリ シタン研究会	研究のため（撮影）
3.27	常設展示テーマ 5 港関係 の展示物	三重情報㈱	『ルック三重』「三重の女性 史」に「稲葉たか」を取り 上げる（撮影）

5. 調査研究活動

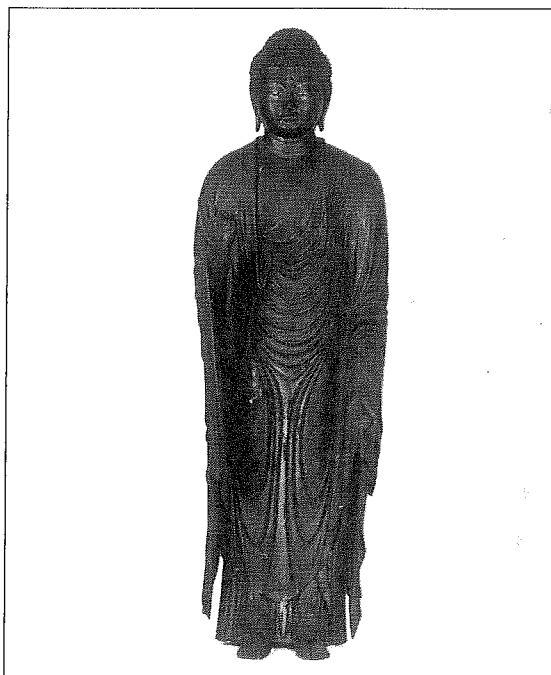
博物館専門職員としての資質を高め、専門分野の学術的研究、また内容豊かな特別展等の開催に資するため、各種情報の収集に努めつつ、調査研究活動を行ってきたが、今後も常設展・特別展等の充実、専門分野での自己研鑽を図ることはもちろんのこと、他の博物館・研究機関、その他公共機関等の調査研究活動への協力、資料収集・展示等への技術的指導と援助、またいろいろな施設で開催される各種の講演会等への講師派遣などで成果還元を図ることを目的として、館及び分野毎の共通テーマに基づいた年度毎の課題調査、学芸員個別の研究テーマによる調査、特別展・企画展に向けての事前調査を柱にして、博物館の諸活動を支える基礎的活動として活発に展開していきたいと考えている。

●平成7年度調査研究テーマ

「寺院調査」

7年度より始めて、4年間をかけて市内の寺院の所有する文化財の所在確認調査を行う計画の初年度。地域別に、網羅的に第1次調査を行い、必要なものについて再度第2次調査をおこなった。

〔学芸員 田中 伸一〕



「個人所蔵の考古資料調査」

市内在住の考古資料収集家の資料は、その数1万点を超える量であり、本市および北勢の考古学を考える上にたいへんに貴重なものである。将来的には寄贈いただけるとの所蔵者のご意思もあり、その前段として所蔵資料の調査をおこなった。

〔学芸員 中野 千幸〕

●「研究紀要」第3号の発行

○規格：A4版 40P 700部 販売価格 ￥500

○内容：丹生祝と国造の浜降り

館長 上井 久義

多度大社上げ馬神事の神児について

主幹兼学芸員

東條 寛

第20航空軍作戦の要約（翻訳及び解説）

八王子空襲を記録する会会員

奥住 喜重



〈神児行列〉

●他機関等での活動状況

主幹兼学芸員

国立歴史民族博物館共同研究員

東條 寛

三重県祭り行事調査員

学芸員 堀越 光信

皇学館大学史料編纂所研究嘱託

（第二部門『続日本紀史料』編纂）

三重県センター博物館（仮称）資料委員会委員

上野市文化財調査員

伊賀町文化財調査員

阿山町文化財調査員

学芸員 廣瀬 毅

三重県近代化遺産総合調査員

6. プラネタリウム事業

博物館の最上部、5・6階部分に傾斜型のプラネタリウムを設置して、市民の星に対する興味に応える場を提供している。最新式機器の機能を用いて各季節の星空解説番組とテーマを設けたオリジナル番組のほか、幼稚園・保育園対象の幼児番組、小学校低・中学年対象の季節の星空番組、小学校5年生対象の番組投映を行ってきた。

また、天文普及事業では、天体観望会・子供天文教室など各種の行事により、天文に関する教育普及を進めてきた。

(1) 天文展示コーナー

テーマ展示を「宇宙観5000年の歴史」として、一般展示では「四季の星雲星団」などを取り上げ、古代より現代に至る宇宙観の歴史をグラフィックによりわかりやすく展示し、また、太陽系の惑星や星座などの天体写真、隕石の実物を展示している。さらに、パソコン、ビデオ、気象衛星「ひまわり」などの映像を自由に体験できるコーナーを設置している。

★パソコンで楽しむ星空ガイド「はじめての天文学」

★パソコン气象台「気象衛星ひまわりの情報」

★映像で楽しむ天文学「地球と宇宙」



〈天文展示コーナー〉

(2) プラネタリウム投映活動

●一般投映季節番組

①投映期間：平成7年3月26日(日)～6月18日(日)

春番組「マゼランの大航海」

春の星空解説と、16世紀に世界一周の航海を果たしたマゼランの旅をテーマにして、日本では見ることのできない南半球の星空を紹介した。見どころは、嵐の中の大航海、フィリピン諸島の原住民との戦い、あこがれの南十字星、大・小マゼラン雲など。

②投映期間：平成7年6月25日(日)～9月17日(日)

夏番組「恐竜大絶滅」

前半は夏の星座解説、後半は今から6500万年前に突然姿を消した恐竜絶滅の原因を探るさまざまな説と、最新の学説である「隕石衝突原因説」を米国アリゾナ州のバリンジャー隕石孔を撮影した大型映像をまじえながら紹介する。人類も恐竜と同じ運命をたどることになるのだろうか。

③投映期間：平成7年9月24日(日)～12月10日(日)

秋番組「ガリレオ・ガリレイ」

秋の星座解説と、ガリレオ・ガリレイを取り上げた番組。平成7年は土星の環が見えなくなったりしたが、初めて望遠鏡で天体観測をし、土星に環のようなものがあることに気が付いたのもガリレオだった。後の天文学に大きな影響を与えたガリレオの生涯と業績を紹介する。

④投映期間：平成7年12月17日(日)～平成8年3月10日(日)

冬番組「タイムトラベル」

前半は、冬の星空・星座の生解説。後半は、1996年冬、ワタル少年と、彼の目の前に突然タイムマシンで2千年後の地球からやって来た乗組員ケイの二人が時間旅行にでかける物語。天文遺跡といわれるメキシコのカラコルやイギリスのストーンヘンジ、エジプトのピラミッドへと旅をする。プラネタリウムの歳差運動機能を使って、過去・現在・未来の星空を紹介する。





●学習投映・学校園団体利用

- 幼児番組（星空解説と星座物語スライド）
- 小学校低・中学年番組（星空解説と星座物語スライド）
- 小学5年生用番組（プログラム番組・太陽と月の動き）

●プラネタリウム投映時刻

第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
10:30	13:00	14:30	16:00

※この表は、土曜日・日曜日・祝日・長期休業期間のもの。

平日の午前中は、学校等の団体利用として番組を別に設定。

●特別番組 18:30開演

①特別投映

平成7年4月28日(金)、6月16日(金)、8月18日(金)
・10月13日(火)、12月22日(金)、平成8年2月9日

②星空CDコンサート

平成7年5月26日(金)、7月21日(金)、9月8日(金)
12月23日(土)～24日(日)、平成8年3月3日(日)

③星空生演奏コンサート

平成7年7月7日(金)・8日(日) マリンバコンサート、
平成8年1月13日(土) 星空生演奏コンサート

●幼児番組 一般投映 10:30～の部

期 間 4日間(水曜休館)	内 容
3月31日(木)～4月2日(日)	北斗七星の話
7月24日(月)～7月28日(金)	七夕の話
8月7日(月)～8月11日(金)	豪傑ヘルクレスの話
8月21日(月)～8月25日(金)	こと座の話

(3) 天文普及活動

●天体観望会

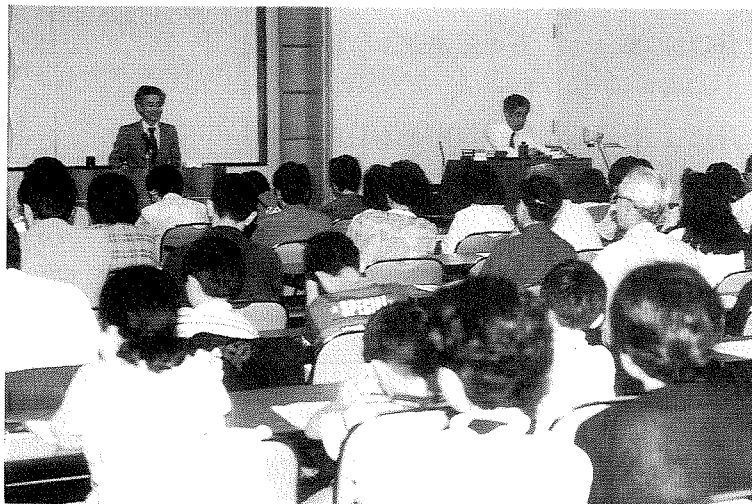
月 日	場 所	月 日	場 所
平成7年4月22日(土)	博物館講座室	8月17日(木)	博物館講座室
5月20日(土)	星の広場	11月24日(金)	博物館
6月9日(金)	博物館	12月9日(土)	博物館講座室
6月24日(土)	博物館講座室	平成8年2月23日(金)	博物館
8月1日(火)	博物館講座室	3月9日(土)	博物館講座室
8月12日(土)	星の広場		



〈観望会〉

●天文講演会

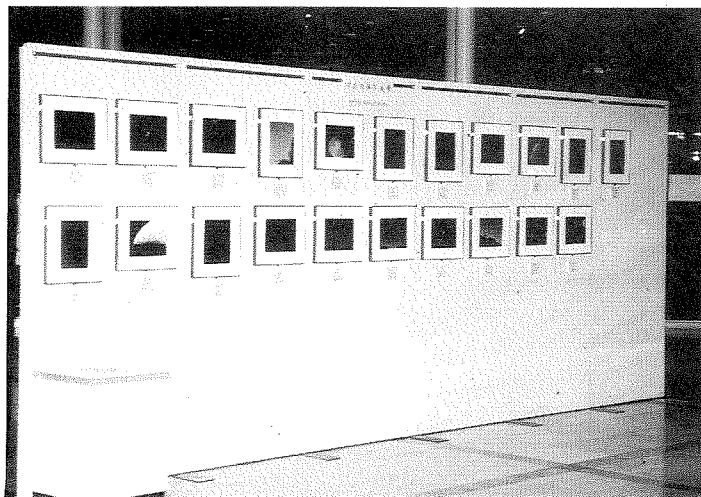
月 日	題 目	講 師
平成7年5月14日 (日)	スバル星讃歌	当館天文係長 岸本 茂
10月1日 (日)	お月さまがついてくる	三重大学教授 為永 辰郎氏
平成8年1月28日 (日)	宇宙は有限らしい	当館顧問 山田 卓



〈講演会〉

●天体写真撮影講習会・天体写真展

月 日	内 容	場 所
平成7年4月29日 (土)	天体写真撮影講習会	博物館
7月29日 (土)	天体写真撮影講習会	星の広場
平成8年11月2日 (木)～	天体写真展	博物館 1階



〈天体写真展〉

●子ども天文教室

月 日	テ ー マ	申込み人数
4月22日(土)	春から夏の星座と今年の天文現象	59名
6月24日(土)	夏の星と天の川	87名
8月1日(火)	夏の星座と宇宙のふしぎ	61名
8月17日(木)	夏の星座とふしぎな宇宙	230名 多数のため、 2日間に分離
8月18日(金)	夏の星座とふしぎな宇宙	
12月9日(土)	冬の星座と星のさがし方	58名
3月9日(土)	星座の誕生と春の夜空の楽しみ方	69名



〈子ども天文教室〉

(4) プラネタリウム番組検討委員会

プラネタリウム投映番組の制作に際し、番組内容の検討および指導・助言を行うため博物館に設置している。

★★★プラネタリウム入館者数10万人達成★★★

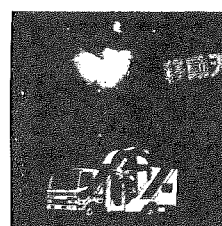
プラネタリウムでは、5年11月に開館以来6年8月1日(月)に5万人目の入場者があったが、7年12月3日には10万人目の入場者があった。10万人目は地元の3歳の男の子。12月18日(月)には、開催中の「ウルトラヒーロー30年の歴史展」にちなんで、学芸員の扮したウルトラマンより、記念品のウルトラ時計を贈呈した。



〈記念品贈呈風景〉

(5) 移動天文車導入事業

参加・体験型の教育普及事業として、従来より天体観望会や天体写真撮影会などを行ってきた。しかし、自ずと、決められた場所で、比較的軽微な装備で、限られた回数しか開催し得ず天候にも左右されるという限界があった。そうした中、この様な事業に対する市民の関心は高く市内の各地域における質の高い観望会の開催を可能とするために、昨年度より移動天文車の導入を検討し、運営実態調査や導入時の需要度などの調査を行ってきた。今年度は、移動天文車の愛称を広く市民に公募し、「きらら」号と決定し、平成8年7月よりの稼働に向け関連施設の整備に努めた。また、実際の稼働に際しては、その運営を補助するための天文指導員としてのボランティア制度の導入をはかるため、天文ボランティアを募集し講座(「初心者のための天文講座」今年度12回)を実施した。



移動天文車の愛称を募集!!

四日市市立博物館では、結のような移動天文車を製作してみなさんの星空観望をお手伝いします。移動天文車は大型車輦に20cmの天体望遠鏡を搭載した車です。これによって市内各地での天体観望が容易にできるようになります。簡単に言えば市内各地に天体望遠鏡の「出陣」を行い、みなさんに星空を眺めてもらえるということです。こんな移動天文車に素敵な「愛称」をつけてください。

素敵な愛称をつけて下さい

- 宇宙・天体・観望等に関する名前
- 「四日市市、あるいは」移動する天文台。「星空の出陣」を連想させる名前
- 新しく知えたものの語彙による名前

これらをもとにして楽しい「愛称」をつけて下さい。

移動天文車「愛称」募集	
①募集方法	官製現貨に、愛称名・該当照像を添付し、氏名・住所・年齢・電話番号を記載し郵送する。数量1枚につき1点。
②募集期間	平成7年10月1日～12月1日(郵送締め)
③選考	応募照像の中から、選考委員会により選考。
④入選	該当愛称応募多数の場合は、該当愛称名応募者の中から抽選で入選者を決定。入選者は2月下旬「直轄」発表。
⑤賞	入賞(1名) 記念品 佳作(2名) 記念品
⑥入選連絡	選考後、該当者に直接連絡。表彰は平成8年7月予定の移動天文車オープン日に行う。
⑦愛称名	入選した愛称名は移動天文車車体にデザインして表示する。
⑧応募受付	〒510 四日市市安島一丁目3-16 市立博物館「移動天文車」係 (又は徳島)博物館5フロアプラネタリウム観望室にお持ち下さい。

四日市市立博物館 〒510 四日市市安島一丁目3-16
電話 (0593) 55-2703

〈愛称募集のチラシ〉

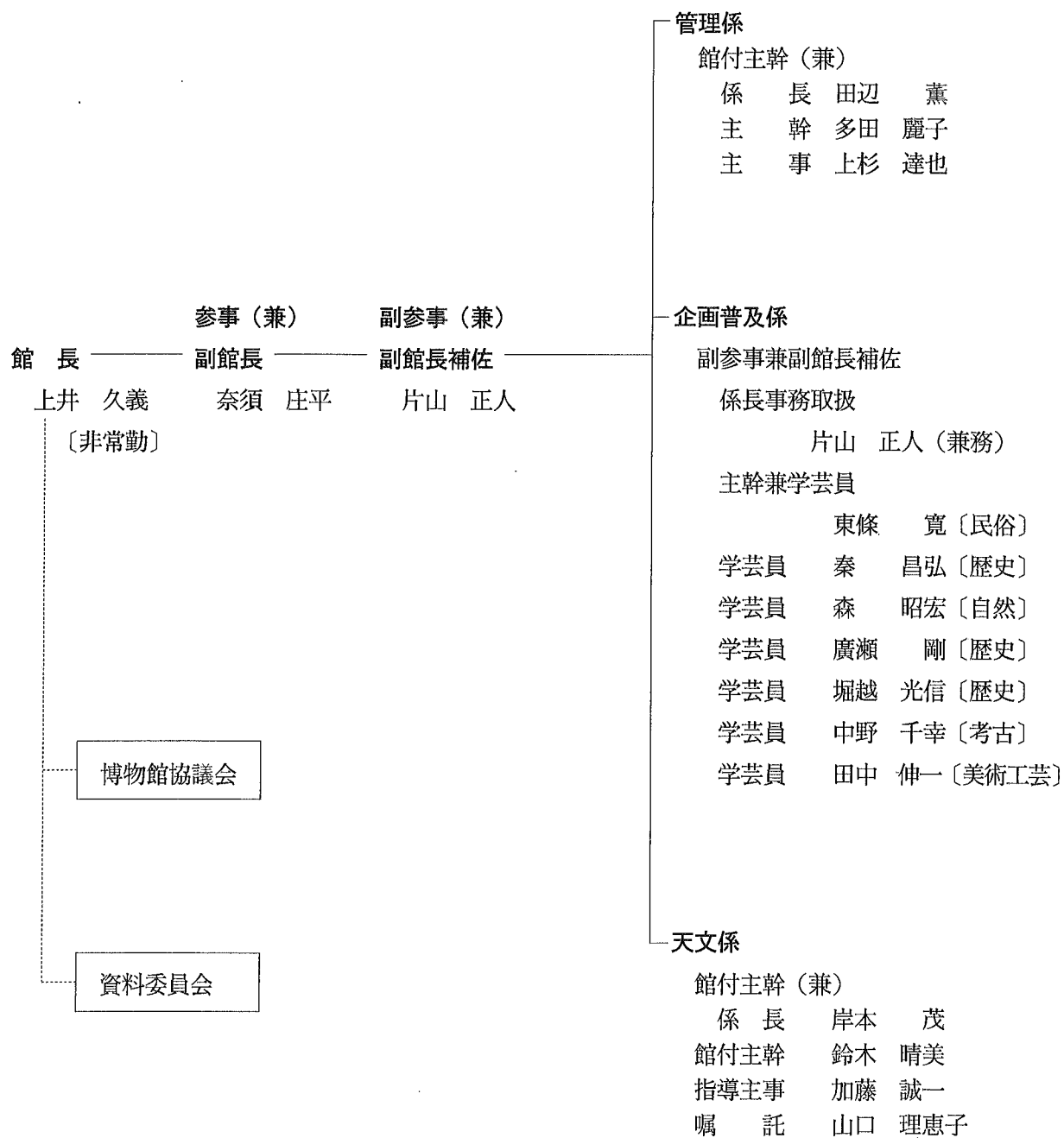
○「初心者のための天文講座」

日 時	内 容	会 場	講 師
6月13日(火)	開講式・説明等・講話	博物館講座室	天文係長 岸本 茂
7月11日(火)	星空の動きと恒星	博物館講座室	三重大大学教授 為永 辰郎氏 天文係長 岸本 茂
8月8日(火)	季節の星空	博物館講座室	天文係長 岸本 茂
9月12日(火)	星座早見盤の使い方	博物館講座室	三重大大学教授 為永 辰郎氏
10月10日(火)	プラネタリウムでの星座探し	博物館講座室	三重大大学教授 為永 辰郎氏
11月14日(火)	天体望遠鏡の扱い方	博物館講座室	天文係長 岸本 茂
11月24日(金)	天体望遠鏡操作実技	観望会参加	天文係
12月12日(火)	星座神話と話し方	博物館講座室	三重大大学教授 為永 辰郎氏 天文係長 岸本 茂
1月9日(火)	天体望遠鏡操作練習	博物館講座室	三重大大学教授 為永 辰郎氏
2月13日(火)	天体望遠鏡操作練習	博物館講座室	三重大大学教授 為永 辰郎氏
2月23日(金)	天体望遠鏡操作実技	観望会参加	天文係
3月12日(火)	副館長面接・閉講講座星座と 神話伝説について	博物館講座室	副館長 天文係長 岸本 茂

II. 管理・運営

1. 組織（平成8年3月末現在）

(1) 職員構成



(2) 事務分掌

〔管理係〕

- ① 博物館事業の調整及び運営に関すること。
- ② 調査、統計及び報告に関すること。
- ③ 博物館協議会に関すること。
- ④ 施設の維持管理及び館内の秩序維持に関すること。
- ⑤ 観覧券の発売及び入館者の受付、案内等に関すること。
- ⑥ 館の庶務に関すること。

〔企画普及係〕

- ① 特別展示の企画及び開催に関すること。
- ② 常設展示及び特別展示の利用者への説明、指導等に関すること。
- ③ 博物館資料の収集、保管、展示、貸出し及び利用に関すること。
- ④ 博物館資料の調査研究及び報告書の刊行頒布等に関すること。
- ⑤ 講演会、講習会、研究会等の開催に関すること。
- ⑥ 博物館資料の購入、受贈及び受託に関すること。
- ⑦ 博物館の広報に関すること。

〔天文係〕

- ① プラネタリウムの映写及び天体観測に関すること。
- ② 天文知識の普及及び啓発に関すること。
- ③ 天文資料の収集、保管、展示及び調査研究に関すること。

2. 予 算 （平成7年度）

〔歳 入〕

（単位：千円）

科 目			当初予算額
使用料及び手数料	博物館使用料	博物館観覧料	25,477
使用料		プラネタリウム観覧料	13,431
教育使用料		講座室使用料	206
社会教育使用料		特殊器具使用料	4
財産収入	市史等売払収入		2,800
財産売払収入			
物品売払収入			
物品売払収入			
計			41,918

〔歳 出〕

(単位：千円)

科 目	当初予算額	管理運営	調査研究	展示開催	資料収集	教育普及	プラネ運営	天文車整備
報 酬	389	389						
賃 金	5,951	2,360	177	2,281	1,133			
報 償 費	3,026		270	1,252	324	300	880	
旅 費	3,088	197	850	1,893	133		15	
需 用 費	61,571	40,562	2,120	12,866	923	600	4,500	
役 務 費	10,356	1,546		6,148	31	2,631		
委 託 料	242,167	104,847	360	61,560	3,200		41,900	30,300
使用料及び賃借料	9,162	2,982					6,180	
備 品 購 入 費	25,00				25,000			
負 担 金 補 助 及 び 交 付 金	21,115	76	39	21,000				
計	381,825	152,959	3,816	107,000	30,744	3,531	53,475	30,300

3. 博物館協議会

四日市市立博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、博物館法及び四日市市立博物館条例の規定に基づき、平成5年6月1日付けで委員17名（定数20人）を委嘱（任期2年）して設置。任期満了につき、新たに委員を委嘱し、変更した。なお、平成7年度は2回開催された。

●第1回協議会

開催日 平成7年9月25日(月)

日 時 午後1時30分～

場 所 博物館講座室

- 議 題 (1) 委員紹介・委嘱状交付
(2) 正・副委員長選出
(3) 7年度事業実施状況
(4) 8年度事業計画
(5) 市制100周年記念事業計画

●第2回協議会（県外視察研修会）

開催日 平成8年2月29日(木)

日 時 午前9時30分～午後4時

場 所 博物館講座室

- 議 題 (1) 7年度事業実施計画
(2) 8年度事業計画
(3) 市制100周年記念事業計画
(4) 県外視察研修会としてトヨタ産業技術記念館（名古屋市）の施設及び展示を見学。

〔四日市市立博物館協議会委員〕

◎委員長 ○副委員長 （順不同・敬称略）

平成8年3月末現在

区分	職 名	氏 名
学校教育関係 5名	四日市市小学校長会会長（大谷台小学校校長）	中瀬啓之助
	四日市市中学校長会会長（南中学校校長）	西浦 昌計
	四日市市公立幼稚園長会会長（川島幼稚園園長）	大平 金子
	三重県北勢地区高等学校代表（四日市高等学校校長）	城 秀一
	私立学校代表（暁小学校校長）	○渡邊 隆平
社会教育関係 4名	四日市市PTA連絡協議会代表（会長：富田中学校PTA）	佐藤 敏明
	四日市市婦人会連絡協議会代表（常磐地区婦人会会長）	服部ます子
	四日市市子供会育成者連絡協議会代表（指導部長）	国保 幸男
	四日市市自治会連合会代表（副会長：東部ブロック代表）	大倉小太郎
学識経験者 8名	四日市市文化財保護審議会代表（副会長）	◎石田 昇三
	四日市市議会代表（教育民生委員会）	川村 幸康
	報道機関（市政記者クラブ）代表（毎日新聞四日市支局長）	小林 哲夫
	四日市商工会議所（社会文化委員会委員長）	熊澤 真清
	四日市大学短期大学部助教授（中世史）	播磨 良紀
	三重県立津高等学校教諭（天文）	鈴木 美好
	三重県立博物館館長	富田 靖男
	四日市市文化振興財団理事長	加藤 節子

4. 利用状況（平成7年4月1日～平成8年3月31日）

(1) 常設展

（上段：月計、下段：累計、単位：人 但し、一般の幼児は招待券に含む）

月	開館 日数	有 料 入 館 者												無 料 入 館 者										入館者 総計
		個 人			団 体 (20%割引)			減免 (50%割引)			減 額 (50% 割 引 の 団 体)			有料 入館 者計	小中学校		幼稚園 保育園		その他 団 体		招待 券等	無料 入館者 計		
		一般	高 大	小 中	一般	高 大	小 中	一般	高 大	小 中	一般	高 大	小 中		校	人数	校	人数	校	人数				
4	26	827	61	264	30	69	0	4	0	1	0	0	0	1,256	0	0	0	0	0	0	357	357	1,613	
5	27	861	76	241	108	0	149	26	0	1	0	0	0	1,462	3	269	1	15	0	0	398	682	2,144	
	53	1,688	137	505	138	69	149	30	0	2	0	0	0	2,718	3	269	1	15	0	0	755	1,039	3,757	
6	26	1,433	53	302	42	149	0	25	1	1	0	0	0	2,006	3	290	3	101	1	17	150	558	2,564	
	79	3,121	190	807	180	218	149	55	1	3	0	0	0	4,724	6	559	4	116	1	17	905	1,597	6,321	
7	27	2,065	155	919	95	0	75	29	0	1	0	0	0	3,339	2	198	9	462	1	8	359	1,027	4,366	
	106	5,186	345	1,726	275	218	224	84	1	4	0	0	0	8,063	8	757	13	578	2	25	1,264	2,624	10,687	
8	26	4,015	130	3,096	42	0	89	18	1	6	0	0	0	7,397	0	0	0	0	0	0	2,548	2,548	9,945	
	132	9,201	475	4,822	317	218	313	102	2	10	0	0	0	15,460	8	757	13	578	2	25	3,812	5,172	20,632	
9	26	989	58	155	48	16	0	19	0	1	100	0	0	1,386	5	469	0	0	0	0	226	695	2,081	
	158	10,190	533	4,977	365	234	313	121	2	11	100	0	0	16,846	13	1,226	13	578	2	25	4,038	5,867	22,713	
10	27	679	53	146	10	0	268	4	0	0	86	0	0	1,246	7	494	2	85	0	0	290	869	2,115	
	185	10,869	586	5,123	375	234	581	125	2	11	186	0	0	18,092	20	1,720	15	663	2	25	4,328	6,736	24,828	
11	25	653	31	131	63	0	92	18	0	0	0	0	0	988	6	442	1	67	0	0	450	959	1,947	
	210	11,522	617	5,254	438	234	673	143	2	11	186	0	0	19,080	26	2,162	16	730	2	25	4,778	7,695	26,775	
12	24	2,912	76	808	32	0	99	12	0	0	1	0	0	3,940	3	348	0	0	0	0	1,979	2,327	6,267	
	234	14,434	693	6,062	470	234	772	155	2	11	187	0	0	23,020	29	2,510	16	730	2	25	6,757	10,022	33,042	
1	24	6,012	97	1,955	0	0	0	24	0	6	0	0	0	8,094	1	48	1	127	0	0	4,013	4,188	12,282	
	258	20,446	790	8,017	470	234	772	179	2	17	187	0	0	31,114	30	2,558	17	857	2	25	10,770	14,210	45,324	
2	24	399	20	73	33	0	24	2	0	0	0	0	0	551	6	405	3	111	2	383	106	1,005	1,556	
	282	20,845	810	8,090	503	234	796	181	2	17	187	0	0	31,665	36	2,963	20	968	4	408	10,876	15,215	46,880	
3	27	722	40	132	5	0	20	7	0	1	0	0	0	927	1	253	6	198	0	8	145	674	1,601	
	309	21,567	850	8,222	508	234	816	188	2	18	187	0	0	32,592	37	3,216	26	1,166	4	416	11,021	15,889	48,481	
合	計	309	21,567	850	8,222	508	234	816	188	2	18	187	0	0	32,592	37	3,216	26	1,166	4	416	11,021	15,889	48,481

(2) 特 別 展

(上段：月計、下段：累計、単位：人 但し、一般の幼児は招待券を含む)

月	開館 日数	有 料 入 館 者												無 料 入 館 者								入館者 総計	
		個 人			団 体 (20%割引)			減免 (50%割引)			減 (50% 割引)の団体			有料 入館者計	小中学校		幼稚園 保育園		その他 団 体		招待 券等		無料 入館者計
		一般	高 大	小 中	一般	高 大	小 中	一般	高 大	小 中	一般	高 大	小 中		校	人数	校	人数	校	人数			
①	37	1,263	128	374	95	69	0	5	0	2	0	0	0	1,909	0	0	0	0	0	0	1,036	1,036	2,945
②	27	3,290	88	714	215	28	25	49	0	1	0	0	0	4,410	6	609	8	331	0	0	737	1,677	6,087
	64	4,553	216	1,061	310	97	25	54	0	3	0	0	0	6,319	6	609	8	331	0	0	1,773	2,713	9,032
③	27	5,014	113	3,785	16	0	140	23	2	7	0	0	0	9,100	0	0	0	0	0	0	3,053	3,053	12,153
	91	9,567	329	4,846	326	97	165	77	2	10	0	0	0	15,419	6	609	8	331	0	0	4,826	5,766	21,185
④	34	1,499	112	184	70	16	0	12	0	1	40	0	0	1,934	3	294	0	0	0	0	606	900	2,834
	125	11,066	441	5,030	396	113	165	89	2	11	40	0	0	17,353	9	903	8	331	0	0	5,432	6,666	24,019
⑤	32	925	52	127	92	0	135	22	0	0	0	0	0	1,353	6	562	1	67	0	0	1,012	1,502	2,994
	157	11,991	493	5,157	488	113	300	111	2	11	40	0	0	18,706	15	1,465	9	398	0	0	6,444	8,168	27,013
⑥	23	17,601	239	4,775	0	0	0	94	1	12	0	0	0	22,722	2	22	1	127	0	0	14,021	14,170	36,892
	180	29,592	732	9,932	488	113	300	205	3	23	40	0	0	41,428	17	1,487	10	525	0	0	20,465	22,338	63,905
⑦	26	921	41	72	46	0	0	7	1	0	0	0	0	1,088	0	0	0	0	1	8	633	688	1,776
	206	30,513	773	10,004	534	113	300	212	4	23	40	0	0	42,516	17	1,487	10	535	1	8	21,098	23,026	65,681
計	206	30,513	773	10,004	534	113	300	212	4	23	40	0	0	42,516	17	1,487	10	535	1	8	21,098	23,026	65,681

特別展・企画展

- | | |
|--------------------|-----------------------------|
| ①「ハイチの素朴な絵画展」 | 3 / 30(木)～5 / 7(火) [37日間] |
| ②「四日市空襲」 | 6 / 16(金)～7 / 16(日) [27日間] |
| ③「あ！とおどろく昆虫たちの世界」 | 7 / 28(金)～8 / 27(日) [27日間] |
| ④「遣唐使が見た中国文化」 | 9 / 2(土)～10 / 10(火) [34日間] |
| ⑤「祭礼・山車・風流」 | 10 / 28(土)～12 / 3(日) [32日間] |
| ⑥「ウルトラヒーロー30年の歴史展」 | 12 / 15(木)～1 / 15(月) [23日間] |
| ⑦「朝日陶芸展」 | 3 / 16(土)～4 / 14(日) [26日間] |

(3) プラネタリウム

(上段：月計、下段：累計、単位：人 但し、一般の幼児は招待券に含む)

月	開館 日数	有 料 入 館 者												無 料 入 館 者								入館者 総計	
		個 人			団 体 (20%割引)			減免 (50%割引)			減免(50% 割引の団体)			有料 入館者 計	小中学校		幼稚園 保育園		その他 団 体		招待 券等		無料 入館者 計
		一般	高小	小中	一般	高小	小中	一般	高小	小中	一般	高小	小中		校	人数	校	人数	校	人数			
4	81	891	196	443	0	0	0	6	0	0	0	0	0	1,536	0	0	0	0	0	0	246	246	1,782
5	89	1,237	154	429	36	0	218	3	0	0	0	0	0	2,077	3	270	1	19	0	0	247	536	2,613
	170	2,128	350	872	36	0	218	9	0	0	0	0	0	3,613	3	270	1	19	0	0	493	782	4,395
6	78	873	121	216	56	121	61	5	0	1	0	0	0	1,454	1	177	11	483	1	17	132	809	2,263
	248	3,001	471	1,088	92	121	279	14	0	1	0	0	0	5,067	4	447	12	502	1	17	625	1,591	6,658
7	100	1,702	152	743	131	0	208	24	0	1	31	0	0	2,992	1	152	24	1,546	0	0	437	2,135	5,127
	348	4,703	623	1,831	223	121	487	38	0	2	31	0	0	8,059	5	599	36	2,048	1	17	1,062	3,726	11,785
8	103	2,706	265	1,828	35	0	89	13	0	5	0	0	0	4,941	0	0	0	0	1	34	1,284	1,318	6,259
	451	7,409	888	3,659	258	121	576	51	0	7	31	0	0	13,000	5	599	36	2,048	2	51	2,346	5,044	18,044
9	79	1,036	147	296	1	19	0	16	0	1	40	0	0	1,556	5	469	1	83	0	0	213	765	2,321
	530	8,445	1,035	3,955	259	140	576	67	0	8	71	0	0	14,556	10	1,068	37	2,131	2	51	2,559	5,809	20,365
10	98	882	129	382	114	0	575	1	0	0	0	0	0	2,083	5	317	3	101	2	35	250	703	2,786
	628	9,327	1,164	4,337	373	140	1,151	68	0	8	71	0	0	16,639	15	1,385	40	2,232	4	86	2,809	6,512	23,151
11	89	854	156	244	8	0	192	5	1	0	0	0	0	1,460	5	342	4	174	0	0	192	708	2,168
	717	10,181	1,320	4,581	381	140	1,343	73	1	8	71	0	0	18,099	20	1,727	44	2,406	4	86	3,001	7,220	25,319
12	61	911	136	221	18	0	134	2	0	0	0	0	0	1,422	2	336	2	58	0	0	153	547	1,969
	778	11,092	1,456	4,802	399	140	1,477	75	1	8	71	0	0	19,521	22	2,063	46	2,464	4	86	3,154	7,767	27,288
1	84	1,260	187	597	0	0	0	6	0	1	0	0	0	2,051	2	135	1	127	0	0	301	563	2,614
	862	12,352	1,643	5,399	399	140	1,477	81	1	9	71	0	0	21,572	24	2,198	47	2,591	4	86	3,455	8,330	29,902
2	82	683	170	238	0	0	0	6	0	0	0	0	0	1,097	6	405	5	249	4	434	154	1,242	2,339
	948	13,035	1,813	5,637	399	140	1,477	87	1	9	71	0	0	22,669	30	2,603	52	2,840	8	520	3,609	9,572	32,241
3	87	843	190	338	51	0	77	3	0	1	0	0	0	1,503	1	255	7	232	1	17	426	930	2,433
	1,035	13,878	2,003	5,975	450	140	1,554	90	1	10	71	0	0	24,172	31	2,858	59	3,072	9	537	4,035	10,502	34,674
計	1,035	13,878	2,003	5,975	450	140	1,554	90	1	10	71	0	0	24,172	31	2,858	59	3,072	9	537	4,035	10,502	34,674

5. 関係法規

四日市市立博物館条例

制定 平成5年3月30日 条例第16号

(趣旨)

第1条 この条例は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2及び博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第18条の規定に基づき、博物館の設置及び管理について必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 本市は、自然科学及び人文科学に関する資料を収集し、保管し、及び展示して市民の利用に供するとともに、プラネタリウムによる天体運行等の映写を行い、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、四日市市立博物館（以下「博物館」という。）を四日市市安島一丁目3番16号に設置する。

(事業)

第3条 博物館は、前条の設置目的を達成するために、次の事業を行う。

- (1) 歴史、考古、民俗、美術工芸、天文等に関する実物、複製、複製、模型、図書、図表、写真、フィルム、レコード等の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、展示し、及び利用に供すること。
- (2) 博物館資料の利用者に対する説明、助言及び指導に関すること。
- (3) 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究に関すること。
- (4) 博物館資料の保管、展示等に関する技術的研究に関すること。
- (5) 博物館資料に関する解説書、目録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
- (6) 博物館資料に関する講演会、研究会等を開催すること。
- (7) 他の博物館、図書館、学校その他関係機関との連絡及び協力に関すること。
- (8) プラネタリウムによる天体運行等の映写及び天体観測の指導に関すること。
- (9) その他必要な事業

(観覧料)

第4条 博物館資料の展示会場へ入場しようとする者及びプラネタリウムの映写を観覧しようとする者は、別表第1に定める観覧料を納付しなければならない。

- 2 前項に定める観覧料の額は、別表第1に定める額に100分の103を乗じて得た額とする。この場合において、その額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。
- 3 前項の規定にかかわらず、中学生以下及び心身障害者で、受付において身体障害者手帳、療育手帳又はそれらに代わるものを提示した者の観覧料の額は、別表1に定める額とする。

(特別展示室等の使用)

第5条 四日市市教育委員会（以下「委員会」という。）は、第2条の設置目的に反せず、第3条の事業に支障のない範囲内において、展示発表等のため、博物館の特別展示室及び講座室（以下「特別展示室等」という。）の使用を許可することができる。

- 2 前項の規定により、特別展示室等を使用しようとする者は、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。
- 3 前項の許可を受けた者は、別表第2に定める使用料を規則で定める期限までに納付しなければならない。
- 4 前項に定める使用料の額は、別表第2に定める額に、100分の103を乗じて得た額とする。この場合において、その額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。

(特別利用の許可等)

第6条 博物館資料の熟覧、模写、模造、撮影等しようとする者は、あらかじめ委員会の許可を受けなければならない。

- 2 前項の許可を受けた者は、2,000円の範囲内において規則に定める手数料を納付しなければならない。

(入館等の制限)

第7条 委員会は、次の各号の一に該当すると認めたときは、博物館への入館を拒否し、若しくは退館を命じ、又は第5条第2項及び前条第1項の許可をしない。

- (1) 公安、風俗その他公益を害するおそれがあるとき。
- (2) 施設、附属設備等を損傷するおそれがあるとき。
- (3) その他委員会において管理上支障があると認めたとき。

(観覧料、使用料及び手数料の減免)

第8条 市長は、特に必要があると認めたときは、観覧料、使用料及び手数料を減額又は免除することができる。

(観覧料、使用料及び手数料の還付)

第9条 既納の観覧料、使用料及び手数料は、還付しない。ただし、市長が特別の事由があると認めたときは、その全部又は一部を還付することができる。

(権利の譲渡等の禁止)

第10条 第5条第2項及び第6条第1項の規定により許可を受けた者（以下「使用者」という。）は、その権利を他に譲渡し、又は転貸してはならない。

(許可の取消し等)

第11条 委員会は、使用者が次の各号の一に該当すると認めたときは、許可の条件を変更し、又は使用若しくは利用を停止し、若しくは許可を取り消すことができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- (2) 許可の条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。
- (4) その他委員会において特に必要があると認めたとき。

(特別の設備等)

第12条 使用者は、既存の設備を変更し、又は特別の設備を使用しようとするときは、あらかじめ委員会の承認を受けなければならない。

(原状回復の義務)

第13条 使用者は、その使用若しくは利用を終了したとき又は第11条の規定により使用若しくは利用を停止され、若しくは許可を取り消されたときは、直ちに原状に回復しなければならない。

2 使用者が前項の義務を履行しないときは、委員会においてこれを執行し、使用者からその費用を徴収する。

(損害賠償)

第14条 使用者は、使用若しくは利用中に建物、附属設備等を損傷又は滅失したときは、これを原状に回復し、又はその損害を賠償しなければならない。ただし、市長が特別の事由があると認めたときは、その全部又は一部を免除することができる。

(博物館協議会)

第15条 博物館の運営に関し、館長の諮問に応じるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、法第20条第1項の規定に基づき、博物館に四日市市立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

- 2 協議会の委員の定数は、20人以内とする。
- 3 協議会の委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委任)

第16条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、委員会が別に規則で定める。

附則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成5年4月1日から施行する。ただし、第3条第1号（博物館資料の展示及び利用に供する部分に限る。）、第2号及び第8号並びに第4条から第14条までの規定は規則で定める日から、次項の規定は平成5年9月1日から施行する。

(四日市市立郷土資料庫条例の廃止)

- 2 四日市市立郷土資料庫条例（昭和45年四日市市条例第38号）は、廃止する。

別表第1（第4条関係）

区 分	博物館常設展示 1人1回につき	プラネタリウム 1人1回につき	博物館特別展示及び プラネタリウム特別番組 1人1回につき
一 般	200円	500円	2,000円の範囲内で 委員会が定める額
高・大学生	150円	350円	
小・中学生	100円	200円	

備考

- (1) 心身障害者で、受付において身体障害者手帳、療育手帳又はそれらに代わるものを提示した者に限り、観覧料は、規定料金の100分の50の額とする。
- (2) 20人以上の団体は、1人1回につき規定料金の100分の80の額とする。

別表第2（第5条関係）

区 分	午 前	午 後	全 日
	午前9時から 正午まで	午後1時から 午後5時まで	午前9時から 午後5時まで
特別展示室	—	—	30,000円
講 座 室	8,000円	12,000円	20,000円

四日市市立博物館条例施行規則

制定 平成 5 年 3 月 31 日 教委規則第 5 号

(趣旨)

第 1 条 この規則は、四日市市立博物館条例(平成 5 年四日市市条例第 16 号。以下「条例」という。)第 16 条の規定に基づき、条例の施行について必要な事項を定めるものとする。

(開館時間)

第 2 条 四日市市立博物館(以下「博物館」という。)の開館時間は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、四日市市教育委員会(以下「委員会」という。)が特に必要があると認めたときは、これを変更することができる。

(休館日)

第 3 条 博物館の休館日は、次のとおりとする。ただし、委員会が特に必要であると認めたときは、これを変更し、又は臨時に休館することができる。

- (1) 水曜日。ただし、その日が国民の休日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に規定する休日に当たるときは、その翌日とする。
- (2) 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日まで

(観覧の手続)

第 4 条 博物館資料の展示会場に入場しようとする者及びプラネタリウムの映写を観覧しようとする者は、観覧料の納入の際に観覧券の交付を受け、展示室及びプラネタリウム室の入口においてこれを係員に提示又は提出しなければならない。

(使用許可の申請)

第 5 条 条例第 5 条第 2 項の規定により、特別展示室等の使用の許可を受けようとする者は、四日市市立博物館使用許可申請書(第 1 号様式。以下「申請書」という。)により委員会に申請しなければならない。

2 前項の申請の受付は、使用しようとする日(引き続き 2 日以上使用しようとする場合は、その最初の日をいう。以下「使用日」という。)の属する月の初日前 6 月からとする。

3 前項の規定にかかわらず、次の各号の一に該当する場合は、前項に定める期間前に受付できるものとする。

- (1) 四日市市又は委員会が行う事業又は主催する行事に使用するとき。
- (2) その他委員会が特に必要であると認めたとき。

4 第 1 項に規定する申請書の受付は、午前 9 時から午後 5 時までとする。ただし、休館日の受付は行わない。

(使用の許可)

第 6 条 委員会は、前条第 1 項の使用許可の申請について適当と認めたときは、使用の許可を決定し、四日市市立博物館使用許可書(第 2 号様式。以下「許可書」という。)を申請者に交付するものとする。

2 博物館の使用について許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、博物館使用の際に、前項の許可書を係員に提示し、指示を受けなければならない。

(使用の変更及び取消し)

第 7 条 使用者は、許可書に記載された事項を変更し、又は施設の使用を取り消そうとするときは、四日市市立博物館使用変更(取消し)許可申請書(第 3 号様式)に許可書を添えて委員会に提出しなければならない。

2 委員会は、前項の規定により使用の変更又は取消しを許可したときは、四日市市立博物館使用変更(取消し)許可書(第 4 号様式。以下「変更(取消し)許可書」という。)を申請者に交付するものとする。

(附属設備の名称及び使用料の額)

第 8 条 博物館の附属設備の使用料の額は、別表第 1 に定める額に 100 分の 103 を乗じて得た額とする。この場合において、その額に 10 円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。

(使用料の納付)

第 9 条 使用者は、使用の許可と同時に使用料を納付しなければならない。

2 官公署が使用する場合にあっては、前項の規定にかかわらず、別に納付期間を定めることができるものとする。

(観覧料の減免)

第 10 条 条例第 8 条の規定に基づく観覧料の減額又は免除の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 四日市市及び三重郡に所在する学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に規定する小学校、中学校の児童、生徒が学校教育の一環として教職員に引率されて常設展示、プラネタリウムを観覧するとき。10 割
- (2) 博物館が開催する特別展示を観覧料を納付して観覧したものが、引き続き常設展示を観覧するとき。10 割
- (3) その他委員会が特別の事由があると認めた時。

その都度委員会が定める割合

2 前項第 1 号に定める観覧料の減免を受けようとする者は、四日市市立博物館観覧料減免申請書(第 5 号様式)に、減免を必要とする理由を記し、委員会に申請しなければならない。

(優待券等)

第 11 条 委員会が特に必要と認めたときは、優待券、招待券及び特別展示前売観覧券を発行することができる。

(使用料の還付)

第 12 条 条例第 9 条ただし書の規定により使用料を還付する場合及び還付の割合については、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 災害等特別の事由により、使用者の責めによらない場合において使用できなかったとき。10 割
- (2) 使用者が使用日の前 7 日以前に使用許可の取消しを申請し、許可されたとき。5 割

2 使用者が第 7 条の規定により博物館の使用の変更を許可された場合において、既納の使用料に過納金が生じたときは、これを還付するものとする。

3 前 2 項の規定により使用料の還付を受けようとする者は、四日市市立博物館使用料還付申請書(第 6 号様式)に第 1 項第 1 号の場合にあっては許可書と使用料領収書、第 1 項第 2 号及び前項の場合にあっては変更(取消し)許可書と使用料領収書を添えて委員会に申請しなければならない。

4 委員会は、前項の申請を受理し、還付を決定したときは、四日市市立博物館使用料還付決定通知書(第 7 号様式)を申請者に交付するものとする。

(使用者の遵守事項)

第 13 条 博物館に入館する者、使用者及び条例第 6 条第 1 項の規定により許可を受けた者(以下「使用者等」という。)は、条例及びこの規則に定めるもののほか、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- (1) 使用を許可されていない施設を使用し、又は立ち入らないこと。
- (2) 所定の場所以外で喫煙し、又は火気を使用しないこと。
- (3) 許可を受けないで張り紙をし、又はくぎ類を打ち、建物その他の

- 物品をき損又は汚損するおそれのある行為をしないこと。
- (4) 騒音を発し、暴力を用いるなど他人に迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (5) その他委員会が定める事項及び係員の指示に従うこと。

(職務上の立入り)

第14条 使用者は、係員の職務上の立入りを拒んではならない。(施設等の損傷の届出)

第15条 使用者等は、施設、附属設備等を損傷又は滅失したときは、直ちに理由を付して委員会に届け出なければならない。

(使用後の届出及び点検)

第16条 使用者等は、条例第13条の規定により施設、設備等を原状に復したときは、速やかに委員会に届け出るとともに、その点検を受けなければならない。

(特別利用の許可の申請)

第17条 条例第6条第1項の規定に基づき、特別利用の許可を受けようとするものは、四日市市立博物館資料特別利用許可(減免)申請書(第8号様式)を委員会に提出しなければならない。

2 委員会は特別利用の許可をしたときは、四日市市立博物館資料特別利用許可書(第9号様式)を交付するものとする。

3 四日市市立博物館資料特別利用許可書の交付を受けたものは、直ちに条例第6条第2項に基づく手数料を納付しなければならない。

4 前項に定める手数料の額は、別表第2に定める額に100分の103を乗じて得た額とする。この場合において、その額に10円未満の端数が生じたときは、これを四捨五入するものとする。

第18条 条例第8条の規定に基づく手数料の減額又は免除の範囲は、次のとおりとする。

- (1) 市、県又は国若しくは他の地方公共団体が行う教育、学術若しくは文化の事業又はこれらの事業の普及の用途に供することを目的とするとき 10割
- (2) 私立の博物館、図書館、学校等が行う教育又は研究の用途に供することを目的とするとき。 10割
- (3) 主に学術研究の用途に供することを目的とするとき 10割
- (4) その他委員会が特別の事由があると認めたとき。

その都度委員会が定める割合

2 前項に定める使用料の減免を受けようとする者は、四日市市立博物館資料特別利用(減免)申請書(第8号様式)に、減免を必要とする理由を記し、委員会に申請しなければならない。

(特別利用の制限)

第19条 次の各号の一に該当するときは、特別利用の許可をしない。

- (1) 特別利用によって博物館の資料の保存に影響を及ぼすおそれがあると委員会が認めたとき。
- (2) 現に博物館資料が展示されているとき。
- (3) 寄託された博物館資料で寄託者の同意を得ていないとき。
- (4) 著作権がある博物館資料で著作権者の承諾を得ていないとき。
- (5) その他委員会が特別利用をすることが不適当と認めたとき。

(博物館資料の館外貸出し)

第20条 博物館資料は、次の各号の一に該当するときは、館外への貸出しをしない。ただし、他の博物館、図書館、学校その他委員会が適当と認めたものは、博物館資料の館外貸出しを受けることができる。

- (1) 館外貸出しによって博物館資料の保存に影響を及ぼすおそれがあると委員会が認めたとき。
- (2) 現に博物館資料が展示されているとき。

(3) その他委員会が博物館資料の館外貸出しをすることが不適当と認めたとき。

2 前項ただし書きの規定により、博物館資料の館外貸出しを受けようとするものは、あらかじめ四日市市立博物館資料館外貸出許可書(第10号様式)を委員会に提出し、その許可を受けなければならない。

3 委員会は、博物館資料の館外貸出しを認めた場合は、四日市市立博物館資料館外貸出許可書(第11号様式)を交付するものとする。

4 博物館資料の館外貸出しの期間は、1月以内とする。ただし、委員会が特に必要があると認めたときは、この限りではない。

(協議会の委員長及び副委員長)

第21条 条例第15条に規定する四日市市立博物館協議会(以下「協議会」という。)に、委員長及び副委員長を置き、それぞれ委員の互選によって選出する。

2 委員長及び副委員長の任期は、委員としての在任期間とする。

3 委員長は、協議会の会務を総理し、協議会を代表する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(協議会の会議)

第22条 協議会の会議(以下「会議」という。)は、定例会及び臨時会とし、定例会は年2回、臨時会は必要に応じて開催する。

2 会議は、委員長が召集し、委員長がその議長となる。

3 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。

4 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(庶務)

第23条 協議会の庶務は博物館において処理する。

(委任)

第24条 この規則に定めるもののほか、必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成5年4月1日から施行する。ただし、第2条から第20条までの規定は、条例附則ただし書に規定する規則で定める日から、次項の規定は、平成5年9月1日から施行する。

(四日市市立郷土資料庫条例施行規則の廃止)

2 四日市市立郷土資料庫条例施行規則(昭和45年教育委員会規則第5号)は、廃止する。

別表第1(第8条関係)

区 分	使用料(一回一式)
16ミリ映写機	2,000円
スライド映写機	1,000円
プロジェクター	1,000円

別表第2(第17条関係)

区 分	手数料(一点一日)
熟 覧	300円
横 写	1,000円
拓 本	1,000円
撮 影	1,000円

Ⅲ. 施設概要

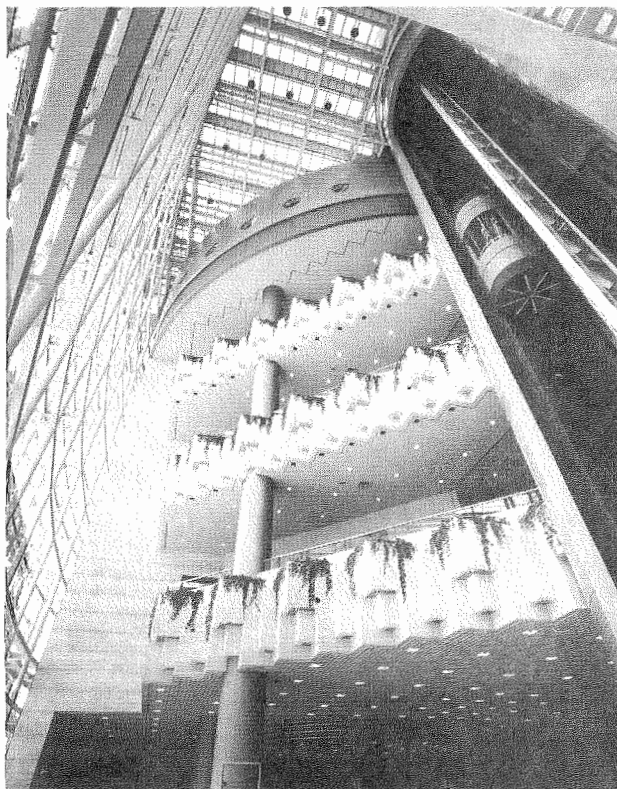
●設計概要

敷地は、旧四日市工業高校跡地の一角で、街区には都市公園を介して地場産業振興センター、アムスクエアがあり、それらとの調和を図る必要があった。そこで、形態的には都市公園を介してオープンなアトリウムで呼応しあう関係を生み出し、色調的にはアムスクエアのグレイッシュピンクと補色関係にあり色の映える淡緑青色を基調としている。

外観デザインとしては、博物館とプラネタリウムという複合した機能を持つ建物の性格上、「過去」（歴史）、「現在」、「未来」（宇宙）の調和をテーマとしている。そのことは、基壇部において花崗岩のジェットバーナー仕上げで歴史の積層をイメージし、胸部において割肌タイルにより工業化が進んだ現代だからこそ逆に求められる手造り的なあたたかさ、やさしさを表現し、頂部においてステンレスの球体を一部露出させ、未来的、宇宙的なイメージを喚起して、それらの三層構成による対比と調和を図っている。また、都市公園に面する東側はボリュームの大きさからくる威圧感を低減するために、面を分節化し、水平線を強調したガラスのカーテンウォール、地上の緑が階段状に延長した濃緑色の石貼部、太陽光線をイメージした黄色の垂直線、コンビナートのメタファーとしての金属のパイプや球体により、リズムカルで変化のある構成としている。

内部機能構成としては、地下部分に収蔵部門、1階にエントランス、2～4階に博物館部門、5、6階にプラネタリウム部門を収め、地上部分に5層吹抜のアトリウムを設けることにより積層化した施設の空間的な一体感を生み出す計画としている。また、都市公園に対してオープンな構成とし、それを借景として利用することで空間的な広がりを持たせている。

(石本建築事務所)



●工事概要

所在地	〒510 三重県四日市市安島一丁目3番16号
	「近鉄四日市駅」下車徒歩5分
電話	0593-55-2700 代表
FAX	0593-55-2704
テレホンサービス	0593-55-2705
施設規模	敷地面積 1,845.840㎡
	建設面積 1,590.397㎡
	延床面積 10,147.108㎡
建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート造
	地下2階地上6階
	建物最高の高さ 38.075m
建物イメージ	歴史(石を用いた古典的な様式)
	現代(石、土ものの自然素材と
	金属、ガラスなどの組み
	合わせによる新旧共存)
	未来(金属板の仕上げ
	=プラネタリウム)
色彩イメージ	1F 海 青
	2F 大地 橙
	3F 草花 黄
	4F 山脈 緑
	5F 空(宇宙) シルバー・メタリック
地域・地区	商業地域・防火地域
	建蔽率100%(耐火)、容積率600%
主な室名と面積	
●展示・教育部門 2,156.155㎡	
常設展示室	2F 564.691㎡
〃	3F 454.618㎡
特別展示室	4F 594.798㎡
ラウンジ	2~4F 281.02㎡
情報コーナー	1F 118.81㎡
講座室	1F 142.218㎡
●収蔵部門 1,256.230㎡	
収蔵庫①	B2F 243.29㎡
〃 前室	B2F 38.88㎡
収蔵庫②	B1F 282.17㎡(恒温恒湿)
収蔵庫③	B1F 384.496㎡
〃 前室	B1F 76.086㎡
荷解室	1F 231.308㎡
●研究部門 474.802㎡	
学芸員室	3F 105.059㎡
資料整理室	B1F 84.37㎡
文献資料室	3F 37.952㎡
資料評価室	4F 33.30㎡
くん蒸室	B1F 43.07㎡
スタジオ暗室	B1F 87.51㎡
ビデオ編集室	B1F 16.882㎡
会議室②	4F 37.952㎡
会議室③	3F 28.707㎡
●プラネタリウム部門 1,714.282㎡	
客席(ドーム)	5F-6F 565.017㎡
天文学習室	5F 59.081㎡
天文展示コーナー	5F 194.763㎡
プラネタリウム事務室	5F 59.326㎡
空調機械室	5F-6F 836.095㎡
●管理・一般部門 4,545.639㎡	
事務室	2F 60.464㎡
館長室	2F 37.001㎡
会議室①	2F 50.422㎡
ミュージアムショップ	1F 28.723㎡
警備室	1F 20.812㎡
中央監視室	B2F 44.064㎡
設備機械室	B2F 486.19㎡
電気室、発電室	240.152㎡
倉庫、展示備品庫など	3,577.811㎡
プラネタリウム(1,714㎡)	
ドーム径	18.5m 傾斜型(傾斜度20度)
座席	164席
GSS ヘリオス(五藤光学研究所製)	
7.4等星	25,000個の恒星が投影可能
分離型惑星投影機	9台

スカイライン投影機(80+80シーン)
マルチイメージシステム
マルチサウンドシステム
全天周映画 可能
アストロビジョン70(10.パーフォーレーション)
プラネタリウムとの同期可能(ショートフィルム)

主な施工業者名

建築	(株)鴻池組 三菱建設(株)
	丸藤建設(株)
電気	(株)電工社 四日市電機(株)
設備機械	須賀工業(株) ダイダン(株)
	三東工業所
プラネタリウム	(株)五藤光学研究所
建築設計	(株)石本建築事務所
展示設計	(有)ササキ企画
展示	商工美術(株)
展示映像	中部松下システム(株)
ハイビジョン	中部松下システム(株)
陶壁	萬古環境造形体

設備概要

●空調設備

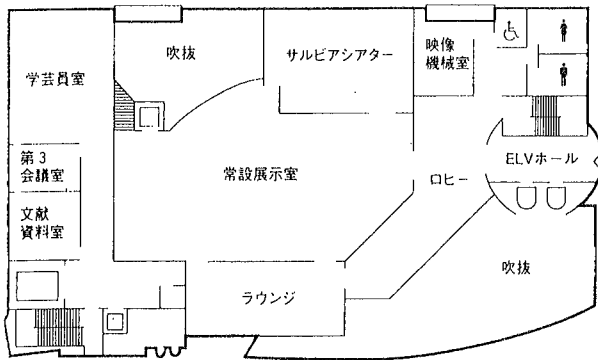
1. 空調熱源機器設備	
①スクリーン冷凍機	
(冷房能力 293,000Kcal/H(97URST))	
暖房能力 254,000Kcal/H)	2基
②スクリーン冷凍機用(空気熱交換器)	2基
送風機(低騒音型 3,400㎡/min)	3台
③蓄熱槽	730㎡
2. 空調、換気及び排煙機器設備	
①空調機	
エアーハンドリングユニット	9基
パッケージ型空調機	30基
ファンコイルユニット	20基
全熱交換機	5基
②送、排風機	
シロッコファン	2基
軸流ファン	8基
ラインファン	13基
消音ボックス付ラインファン	20基
デリバントファン	1基
排煙ファン	3基
排煙口	25基
3. その他機器	
①フィルターユニット	
外気新鮮空気処理ユニット	3基
②消音マフラーユニット	9基
③その他付属設備	一式
4. 空調配管設備	
①空調用ポンプ	14基
②冷温水2次ポンプ可変速制御盤	1基
③冷水ヘッダー	2基
④温水	2基
⑤冷温水用防蝕装置	4基
⑥その他付属設備	一式

●給排水衛生設備

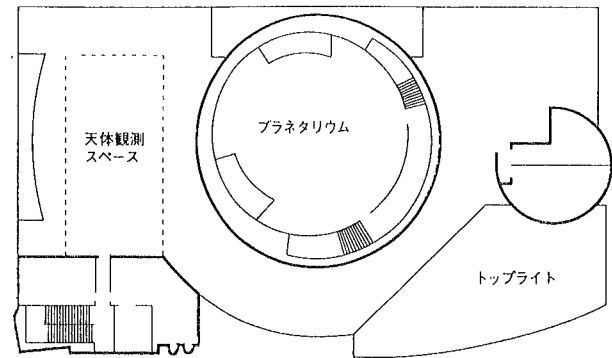
1. 給水設備	
①ポンプ	揚水ポンプ 2基
②受水槽	有効容量 12.7㎡
	(2分割・複合板) 1基
③高架水槽	有効容量 6.3㎡
	(2分割・SUS444)保温付 1基
④電機湯沸器	貯湯量 10L 3基
	貯湯量 20L 3基
	壁掛型瞬間湯沸器 2基
⑤ウォータークーラー	
壁埋込式、ステンレス製	
冷水能力 30L/H	2基
⑥その他付属設備	一式
2. 排水設備	
公共下水道接続箇所	
①湧水排水ポンプ	6基
②雑水排水ポンプ	2基
③雨水排水ポンプ	2基
●くん蒸設備(真空殺虫殺菌装置)	3.15㎡
●消防設備	
①屋内消火栓ポンプ	1基
②屋内消火栓設備	
屋内消火栓箱	12基
屋内消火栓箱(併設型)	4基
③連結散水設備	閉鎖型(8系統) 一式

④ハロゲン消火設備	7系統
(特別展示室、収蔵庫①②③、	
前室、電気室、発電室)	一式
⑤救助袋	3-5階 6台
⑥自動火災報知設備	
差動スポット感知器	6個
定温スポット感知器	14個
煙感知器	384個
炎感知器	4個
⑦非常放送設備	一式
⑧消化器	38本
⑨誘導灯設備	避難口誘導灯 54台
	通路誘導灯 39台
	客席誘導灯 22台
⑩その他付属設備	
●防犯設備	
①防犯設備	熱感センサー 46個
②監視カメラ	1-4階 カラードーム形 16台
	CCD 1台
	モニターテレビ 5台
③防火扉	47箇所
④防火・防災シャッター	32箇所
⑤排煙口	28箇所
●電気設備	
①受電電圧	交流3相3線式 6600V 60Hz
②変圧器	
動力用	
3相6.6KV/210V 300KVA	1台
3相6.6KV/210V 500KVA	1台
3相6.6KV/210V 150KVA	2台
3相6.6KV/440V 500KVA	1台
電灯用	
1相6.6KV/210V/105V 300KVA	2台
1相6.6KV/210V/105V 100KVA	1台
③自家用発電機	
6気筒4サイクルディーゼル機関	
480Ps 1200rpm	1台
3相交流同期発電機 400KVA 6600V	1台
④電線路電圧	6600V 440V 210V 105V
⑤電気室	高低圧配電盤 19面
	動力制御盤 15面
	電灯分電盤 21面
	端子盤 12面
⑥低圧回路	
⑦低圧負荷設備	
電動機合計容量	1,123.023KW 130台
電灯コンセント合計容量	476KVA 2,115個
⑧直流電源装置	
100V非常照明用 発電設備機器操作	
用全自動サイリスター式整流器	
(入力 交流3相 200V 60Hz	
直流出力電流 50A 3相全波整流)	1面
蓄電池	ペースト式高率放電用鉛蓄電池
	2V×54セル
⑨交流無停電電源装置	
100V 中央監視装置用	
商用同期常時インバーター給電方式	
(交流入出力 単相2線式 100V 60Hz	
出力容量 5KVA)	1台
⑩電気時計	水晶発信式 6回路
	親時計 1台 子時計 41台
⑪放送設備	防災アンプ 480W 20回路
⑫電話設備	デジタル電子交換機 一式
	多機能電話機 15台
	一般電話機 34台
⑬テレビ共聴設備	CATV引込(CTV)
⑭中央監視設備	SAVIC-NET50による監視システム
●エレベーター	
1.2号 乗用(展望用)	定員17名 1150kg 90m/分
3号 乗用	定員11名 750kg 105m/分
4号 人荷用	定員67名 4400kg 30m/分
5号 乗用	定員11名 750kg 30m/分
●その他設備	昇降リフト(2トン) 1台
	ゴンドラ(ガラス清掃) 2台
	自動扉 4箇所

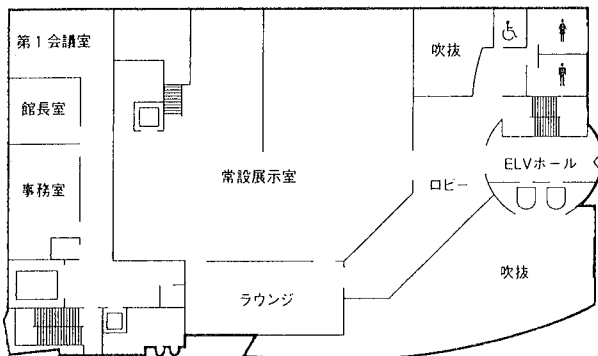
3 階平面図



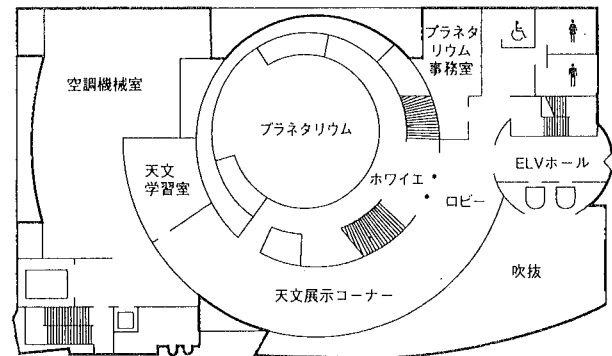
6 階平面図



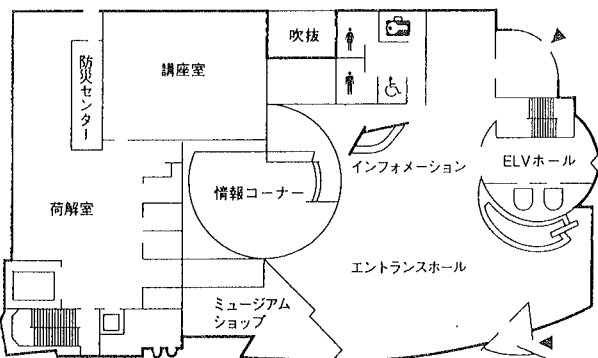
2 階平面図



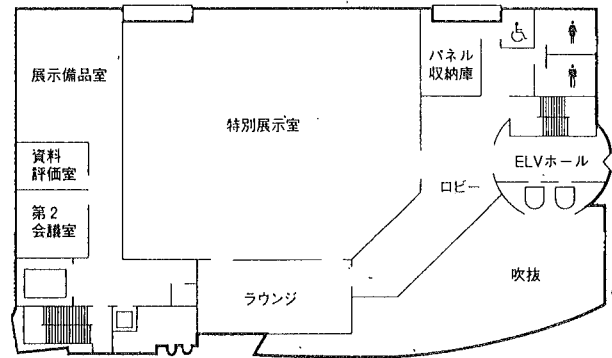
5 階平面図



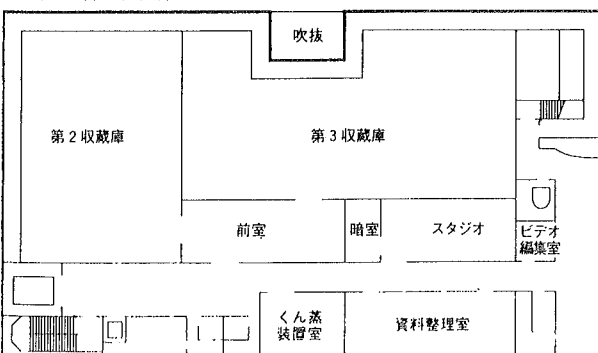
1 階平面図



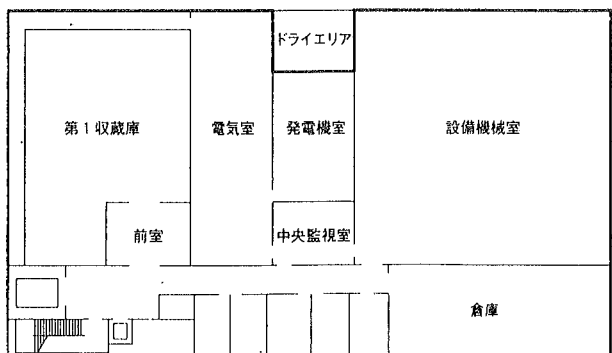
4 階平面図



地下1 階平面図



地下2 階平面図



V. 博物館日誌抄

- | | |
|---|--|
| <p>7. 4. 1 高校生天文教室
3 辞令交付
プラネタリウム幼児番組→5日
5 台湾留学生視察
9 企画展「ハイチの素朴な絵画展」
講演会 長谷川栄氏
10 常設展示2Fラウンジ展示工事
11 四日市商工会議所
常設展示2Fラウンジ展示工事
12 四日市市広報課取材(浮世絵)
13 古文書教室
15 普及会議(歴史ゼミナール)
17 三重県下市町村教育長会議
18 四日市市内校園長会議
19 文化財ボランティア(明石市)
研究調査(亀山市)
21 文化財調査(菰野町)
22 企画展「ハイチの素朴な絵画展」
実演 アルボット・ボナム氏→23日
子ども天文教室
24 企画展「四日市空襲」調査(栗東)
25 記者発表(平成6年度制作
ハイビジョン作品)
企画展「遣唐使の見た中国文化」
調査(橿原市)
26 企画展「四日市空襲」
資料収集(市内)
H8企画展「公害の歴史」打合
27 橿原市議会視察
古文書教室
ハイビジョン打合(東京)→28日
埋蔵文化財会議(斎宮)
H9特別展(仮称)「聖の足跡」調査
(奈良)
28 寺院調査打合(文化課・文化会館)
プラネタリウム特別放映
29 天文写真講習会
ハイビジョン・ウィーク→5月7日
5. 7 東海道を歩こう下見
8 記者発表(博物館解説ボランティア・
月例土曜講演会)
9 企画展「ハイチの素朴な絵画展」
最終日
11 古文書教室
12 古文書実習
14 天文講演会
16 歴史的文書会議
100周年記念行事会議</p> | <p>18 四日市市福祉課視察
19 「石垣定哉展」開会
20 美術講演会「石垣定哉展」
月例土曜講演会
24 三重県立聾学校視察
25 古文書教室
26 古文書実習
プラネタリウム星空CDコンサート
30 博物館教室「壬申紀を読む」
市政モニター視察
6. 1 古文書教室
4 「石垣定哉展」終了
6 記者発表(企画展「四日市空襲」)
7 日本博物館協会近畿支部役員会(海南市)
三重TV収録(戦後)
古文書教室
9 100周年生活文化部会会議
移動天文車説明(正副委員長)
天体観望会
古文書実習
11 博物館ボランティア説明会
12 特別展「祭礼・山車・風流」調査(京都)
13 博物館教室「壬申紀を読む」
プラネタリウム:天文連続講座
特別展「祭礼・山車・風流」調査
(知多市)
14 ハイビジョン打合(名古屋市)
寺院調査(善教寺)
15 企画展「四日市空襲」内覧会
寺院調査
考古調査
特別展「祭礼・山車・風流」調査
(和歌山市)
16 ボランティア調査
(三重県立美術館・亀山市歴史博物館)
プラネタリウム・特別放映
特別展「祭礼・山車・風流」調査
(犬山市)
17 月例土曜講演会
18 ボランティア説明会(追加)
企画展「四日市空襲」
戦争を語る座談会
19 H8企画展「公害の歴史」打合
20 ボランティア説明会(追加)
寺院調査(長興寺)
21 特別展「祭礼・山車・風流」調査
(福岡・長崎)→22日
考古調査
22 古文書教室
考古調査
23 街区委員会
古文書実習
寺院調査(願入寺)
特別展「祭礼・山車・風流」調査(斎宮)
24 子ども天文教室</p> |
|---|--|

	ボランティア養成講座		寺院調査（蓮光寺）
25	プラネタリウム夏番組「恐竜大絶滅」 投映開始	20	100周年個別イベント会議 展示補助派遣（四日市市文化会館） →21日
	特別展「祭礼・山車・風流」調査（東京）		古文書教室
27	博物館教室「壬申紀を読む」	21	寺院調査（円樂寺） プラネタリウム：CDコンサート
	特別展「祭礼・山車・風流」調査（津）	22	企画展「あ！とおどろく昆虫たちの世界」 調査（三重県立博物館）
	展示調査派遣（四日市市文化会館）		ボランティア養成講座
	特別展「祭礼・山車・風流」調査 （姫路市）	23	東海道を歩く
	考古調査	24	博物館実習→28日 プラネタリウム：幼児番組→28日
30	三重県博物館建設準備室資料委員会派遣	25	生涯学習推進会議 サンパウロ大学サッカー部視察 博物館教室「壬申紀を読む」
7. 1	ボランティア養成講座	27	古文書教室
3	特別展「祭礼・山車・風流」調査 （上野市）	28	企画展「あ！とおどろく昆虫たちの世界」 初日 三重TV「夢翔けて四日市」取材 古文書実習
5	寺院調査（証円寺）		プラネタリウム：天体写真撮影講習会（星の広場）
	特別展「祭礼・山車・風流」調査（大阪）	31	プラネタリウム：天文教室（神前地区市民センター）
6	企画展調査（東京・群馬）→7日	8. 1	プラネタリウム：特別投映 子ども天文教室 特別展「祭礼・山車・風流」調査 （西尾市）
	特別展「祭礼・山車・風流」調査 （八尾市）	2	企画展「あ！とおどろく昆虫たちの世界」 展示追加 特別展「祭礼・山車・風流」調査 （半田市）
	プラネタリウム：番組検討委員会		H9企画展調査（岐阜市）
7	H8企画展「公害の歴史」実行委員会 三重県博物館協会総会（斎宮） プラネタリウム：マリンパコンサート		寺院調査（大聖院）
	寺院調査（光明寺）	3	古文書教室
8	中部地区市民センター視察 三重大学博物館施設見学 プラネタリウム：マリンパコンサート	4	天津市サッカー少年団視察 特別展「祭礼・山車・風流」調査 （津市・斎宮）
9	ボランティア養成講座 長坂市視察		寺院調査（常照寺） 考古資料調査
10	特別展「祭礼・山車・風流」調査 （犬山市）	7	寺院調査（日蓮宗追分協会） プラネタリウム：幼児番組→11日
11	博物館教室「壬申紀を読む」 プラネタリウム：連続天文講座 特別展「祭礼・山車・風流」調査 （桑名市）	8	子ども工作教室 「竹トンボを作ろう」 昆虫ウォッチング（中央緑地） プラネタリウム：天文連続講座
12	特別展「祭礼・山車・風流」調査 （名古屋市）	9	斎宮歴史博物館館長視察 昆虫ウォッチング（中央緑地）
	寺院調査（西唱寺）	10	100周年記念事業会議
	考古調査	11	古文書教室
	ボランティア調査（徳川美術館）	12	プラネタリウム：天文観望会 （ペルセウス座流星群）
13	特別展「祭礼・山車・風流」調査（大阪） 考古調査	13	ボランティア養成講座
	三重地区市民センター講師派遣	14	展示補助派遣（四日市市文化会館）
14	特別展「祭礼・山車・風流」調査 古文書教室		
15	資料委員会 月例土曜講演会		
16	企画展「四日市空襲」最終日		
17	保存担当学芸員研修（東京）→28日 三重県近代化遺産会議派遣（津市） ASC会議（東京）→18日 寺院調査（薬師寺）		
18	日本テレビ取材（四日市公害関連）		
19	港湾都市協議会視察 文化施設連絡会議		

- | | | | |
|------|--|-------|---|
| 15 | 特別展「祭礼・山車・風流」調査
(長浜城博物館) | 13 | 寺院調査(西願寺)
H 8 特別展「神宝の美」調査(伊勢) |
| 17 | 古文書教室
子ども天文教室 | 14 | 月例土曜講演会 |
| 18 | 5都市ネットワーク会議「文化」会議 | 18 | 寺院調査(正福寺) |
| 19 | 月例土曜講演会 | 19 | 博物館教室「古代仏教僧伝」 |
| 21 | 戦争体験を語る会
寺院調査(栄信寺)
プラネタリウム: 幼児番組→25日 | 20 | 三重TV「夢翔けて四日市」取材
「遣唐使が見た中国文化」
寺院調査(眞楽寺) |
| 22 | 尼崎市教育委員会視察 | 21 | 古文書教室 |
| 23 | 四日市市都市振興課視察
寺院調査(専福寺) | 22 | 古文書実習
豊田市教育事務所視察 |
| 24 | H10企画展調査(豊橋市) | 23 | プラネタリウム: 臨時観望会
(共催: 自然の会) |
| 25 | 古文書教室
寺院調査(金剛寺) | 24 | 企画展「遣唐使が見た中国文化」
講演会(総合会館)
プラネタリウム: 秋番組
「ガリレオ・ガリレイ」開始 |
| 26 | ボランティア養成講座
企画展「遣唐使が見た中国文化」調査
(福山市)→28日
四日市市教育委員会学校教育課視察 | 25 | 博物館協議会
5都市ネットワーク(岐阜市)
寺院調査(唯福寺) |
| 27 | 企画展「あ!とおどろく昆虫たちの世界」
最終日
「動植物の名前を教える会」 | 26 | 記者発表(移動天文車愛称募集) |
| 28 | H 9 特別展(仮称)「聖の足跡」
調査(奈良)(東京)→30日 | 27 | 日本博物館協会近畿支部研修
(福井市)→28日
三重県博物館協会移動博物館打合
(久居市) |
| 29 | ハイビジョン打合(東京)→30日
記者発表(企画展「遣唐使が見た
中国文化」・解説ボランティア活動) | | 東海財務局視察
近畿少年自然の家連絡協議会 |
| 30 | 広域市町村圏(企画整備課)視察 | 28 | 古文書教室
日本学術会議(東京)
自然の会運営委員会 |
| 31 | 特別展「祭礼・山車・風流」調査
(名古屋市)
古文書教室
多治見市教育委員会視察 | 10. 1 | 天文講演会 |
| 9. 1 | 情報伝達訓練(防災の日) | 3 | 博物館教室「古代仏教僧伝」
三重県13市教育長会視察
プラネタリウム: 番組検討委員会 |
| 2 | 企画展「遣唐使が見た中国文化」初日
解説ボランティア活動開始 | 4 | 東海三県博物館協会交流研修会
(斎宮歴史博物館)→5日
企画展「朝日陶芸展」打合(名古屋市) |
| 5 | 博物館教室「古代仏教僧伝」
プラネタリウム: 日永小学校星空教室 | 5 | 古文書教室
三重地区市民センター講師派遣 |
| 6 | 資料貸出(奥会津歴史民俗資料館)
寺院調査(浄福寺) | 6 | 天津市総工会視察 |
| 7 | 企画展「朝日陶芸展」調査(名古屋市)
寺院調査(法柳寺)
プラネタリウム: 朝上小学校星空教室 | 8 | 日本史教育研究会全国大会
寺院調査(悟真寺) |
| 8 | 古文書実習
文化財調査(阿山町)
特別展「祭礼・山車・風流」調査
(弘前市)→9日
プラネタリウム: CDコンサート | 10 | 企画展「遣唐使の見た中国文化」
最終日
プラネタリウム: 連続天文講座 |
| 9 | 四日市市文化会館博物館実習生視察
「清水本陣」資料調査(市史編さん室・
協力)→11日 | 12. | 東海3県教育長会 |
| 10 | 企画展「遣唐使が見た中国文化」
学芸員列品解説 | 13 | プラネタリウム: 特別投映
沖縄県浦添市視察 |
| 11 | 寺院調査(地藏堂・堅三寺) | 14 | 「環境ポスターコンクール」
(青年会議所)→15日
みえアートカレッジ講師派遣(津市) |
| 12 | 資料調査(松阪)
プラネタリウム: 天文連続講座 | 15 | ボランティア面接→17日
「東海道を歩く」 |
| | | 16 | 寺院調査(浄覚寺) |
| | | 17 | 記者発表(特別展「祭礼・山車・風流」) |

	博物館教室「古代仏教僧伝」		天津市TV局取材
18	日本港湾経済学会視察	20	寺院調査（本誓寺）
	寺院調査（光明寺）	21	館長講演会（海山道神社）
19	岡山市議会文教委員会視察	22	ハイビジョン表彰式
21	月例土曜講演会	24	寺院調査（浄土寺）
23	三木市教育委員会視察		H 9 特別展（仮称）「聖の足跡」調査 （奈良・京都）
	市政モニター		古文書教室
24	市定期監査		天体観望会（博物館屋上）
	三重県13市収入役会計事務担当者会議 視察	28	記者発表（企画展「ウルトラヒーロー 30年の歴史展」）
25	日本博物館協会総会（弘前）	30	H 8 企画展「公害の歴史」運営委員会 古文書教室
27	ボランティア事前研修会		天文公開シンポジウム（名古屋）
28	特別展「祭礼・山車・風流」初日	12. 2	国立歴史民族博物館研究会→3日 天文公開シンポジウム（名古屋）
30	寺院調査（浄恩寺）	3	H 7 特別展「祭礼・山車・風流」最終日
31	博物館教室「古代仏教僧伝」	4	千葉県安房博物館視察
11. 1	100周年記念事業打合	7	古文書教室 歴史ゼミナール四日市講師派遣 （奈良・京都）→8日
	H 9 特別展（仮称）「聖の足跡」調査 （奈良）→2日	8	古文書実習
	中部地区市民センター講師派遣	9	子ども天文教室
2	寺院調査（正法寺）	12	天文連続講座
	H 9 特別展（仮称）「天津の歴史と文化」 （神戸）	13	H 8 特別展「神宝の美」調査（伊勢）
	三重県近代化遺産会議派遣	14	古文書教室
	市民天体写真展開催 （1 F エントランスホール）→30日	15	企画展「ウルトラヒーロー30年の 歴史展」初日
5	特別展「祭礼・山車・風流」講座	16	月例土曜講演会
6	アドバンストコース研修（東京）→10日	17	企画展「ウルトラヒーロー30年の 歴史展」1日入館者数最高記録 事業調査（岐阜県立博物館）
8	寺院調査（明円寺）		プラネタリウム：入館者10万人記念 品贈呈式
10	ロングビーチ市長視察		プラネタリウム：冬番組「タイム トラベル」開始
	三重県移動博物館（久居市）→20日	18	寺院調査（泰隆寺）
	都市間ネットワーク会議	20	入間市博物館資料調査 寺院調査（薬師堂）
	古文書教室		H 8 特別展「神宝の美」調査（伊勢）
	資料調査（京都）		ハイビジョン打合（東京）
11	清水本陣資料調査（市史編纂室）→13日	21	古文書教室
12	秋の特別文化講演会（吉村昭氏・ 四日市市文化会館第2ホール）	22	古文書実習
	特別展「祭礼・山車・風流」講座		プラネタリウム特別投映
13	秋田県港湾教育委員会	23	プラネタリウムXマスCDコンサート
	寺院調査（日蓮宗日永協会）	24	プラネタリウムXマスCDコンサート
14	三重県博物館協会研修会（奈良）	27	個別調査（足助町）
	博物館教室「古代仏教僧伝」	28	個別調査（新城市）
	初心者天文教室	29	年末年始休業
15	H 9 特別展（仮称）「聖の足跡」調査 （奈良）→16日	30	年末年始休業
	寺院調査（西覚寺）	31	年末年始休業
16	H 9 特別展（仮称）「天津の歴史と文化」 調査（大阪）	1. 1	年末年始休業
	宇部市都市計画審議会視察	2	年末年始休業
	古文書教室	3	年末年始休業
	伊達家文書撮影（市史編さん室）→21日	4	仕事始め
17	三重県出納局長視察		
	寺院調査（法蔵寺）		
	プラネタリウムCDコンサート		
18	月例土曜講演会		
19	特別展「祭礼・山車・風流」講座		

- | | | | |
|------|--|----|---|
| 6 | 清水本陣資料調査（市史編さん室）
→8日 | 17 | 寺院調査（西願寺）
『あゝ青春』四日市高等学校美術部
20年の歩み」展内覧会
月例土曜講演会 |
| 8 | 移動天文車愛称選考委員会 | 18 | 『あゝ青春』四日市高等学校美術部
20年の歩み」展初日→25日
清水本陣資料調査（市史編さん室） |
| 9 | 天文連続講座 | 19 | 寺院調査（法蔵寺）
記者発表（移動天文車愛称・企画展
「朝日陶芸展」） |
| 11 | 四日市港管理組合ポートビル建設
委員会派遣 | 21 | H8企画展「公害の歴史」実行委員会
寺院調査（大聖院） |
| 12 | 古文書実習 | 22 | 寺院調査（行基寺）
寺院調査（薬師堂）
古文書実習
天体観望会
天文連続講座 |
| 13 | プラネタリウム生演奏コンサート
寺院調査（本徳寺） | 22 | 収蔵庫燻蒸→3.1
四日市南警察署視察
プラネタリウム研究会（館林） |
| 15 | 企画展「ウルトラヒーロー30年の
歴史展」最終日 | 26 | 臨時休館日
H8特別展「神宝の美」調査
（国立歴史民族博物館） |
| 16 | H9特別展（仮称）「天津の歴史と
文化」調査（天津）→24日
博物館教室「うひ山ふみ」を読む | 27 | 寺院調査（悟真寺）
博物館協議会（先進地視察＝トヨタ
産業技術記念館）
100周年検討部会
古文書教室 |
| 18 | 古文書教室 | 28 | 共同研究（国立歴史民族博物館）→3日
3 プラネタリウムCDコンサート
4 H9特別展（仮称）「聖の足跡」調査
（防府市）→5日
H9特別展（仮称）「天津の歴史と
文化」調査（津市）
「東海道を歩く」下見
7 「小林淳二写真展」→10日
8 UNEP会議
三重県博物館協会実務研修
（斎宮歴史博物館）
H9特別展（仮称）「聖の足跡」
調査（奈良市）
企画展調査（橿原市）
古文書実習
9 寺院調査（桑名市）
子ども天文教室
10 「東海道を歩く」
11 寺院調査（善教寺）
12 天文連続講座
13 寺院調査（浄恩寺）
企画展調査（長浜市）
14 日本博物館協会近畿支部幹事会
（海南市）
寺院調査（羽島市）
古文書教室
16 企画展「朝日陶芸展」初日→4.14 |
| 19 | 桑名保健所視察
「坂井胡六遺作展」初日→23日
月例土曜講演会 | | |
| 20 | 高知市議会議員視察 | | |
| 23 | 文化財防火査察（四日市中消防署・
四日市市教育委員会文化課）
H8企画展「公害の歴史」打合
古文書教室 | | |
| 25 | 消防訓練
古文書実習
三重県地区市民センター講師派遣 | | |
| 26 | 天文講演会 | | |
| 28 | 豊田町議員視察
三重県生活文化政策課視察
寺院調査（地藏堂） | | |
| 29 | 博物館教室「うひ山ふみ」を読む | | |
| 30 | 「第37回北勢高等学校美術展」→12日 | | |
| 2. 1 | 日本博物館協会指導者研究協議会
（岡山）
H9特別展（仮称）「聖の足跡」調査
（東京）→4日 | | |
| 3 | 研究調査（大府市）
三重県下税務担当課長会議視察
都市間ネットワーク（名古屋市）
ハイビジョン打合（広島市）
水戸市議会運営委員会視察
研究調査（羽島市） | | |
| 5 | H8企画展「公害の歴史」調査（大阪）
H10企画展調査（東京） | | |
| 6 | 古文書実習
H8特別展「神宝の美」調査（伊勢）
プラネタリウム特別投映
三重県生涯学習課視察 | | |
| 7 | 博物館教室「うひ山ふみ」を読む
天文連続講座
奈良県立橿原考古学研究所資料調査 | | |
| 8 | 寺院調査（正法寺） | | |
| 9 | 資料調査委員会
古文書教室 | | |
| 13 | 四日市西ロータリークラブ講師派遣 | | |

- 17 プラネタリウム春番組「オースト
ラリア星紀行」投映開始→6.16
- 18 資料委員会開催
- 19 東海TVボランティア取材
「参宮道を歩く」下見
- 21 第5回ハイビジョンソフト共同制作
実行委員会（千葉市）
- 22 都市間ネットワーク研究会（浜松市）
古文書実習
寺院調査（常住寺）
- 24 企画展調査（国立歴史民族博物館）
- 25 企画展調査（国立歴史民族博物館・
群馬県立博物館）
- 28 百武彗星観望会（星の広場）
- 29 百武彗星観望会（星の広場）
プラネタリウム番組検討委員会

—— 平成7年度 ——

四日市市立博物館年報 第3号

平成8年7月31日 発行

編集・発行 四日市市立博物館

〒510 四日市市安島一丁目3番16号

TEL 0593-55-2700 (代)

FAX 0593-55-2704

印刷 東海出版有限会社
